

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第4集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 3

2008, 3

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第4集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 3

2008, 3

ふじみ野市教育委員会





神明後遺跡第28地点全景



神明後遺跡18号住居跡出土浅鉢





神明後遺跡22号住居跡出土遺物



神明後遺跡 H 2 号住居跡出土遺物



神明後遺跡22号住居跡 No33

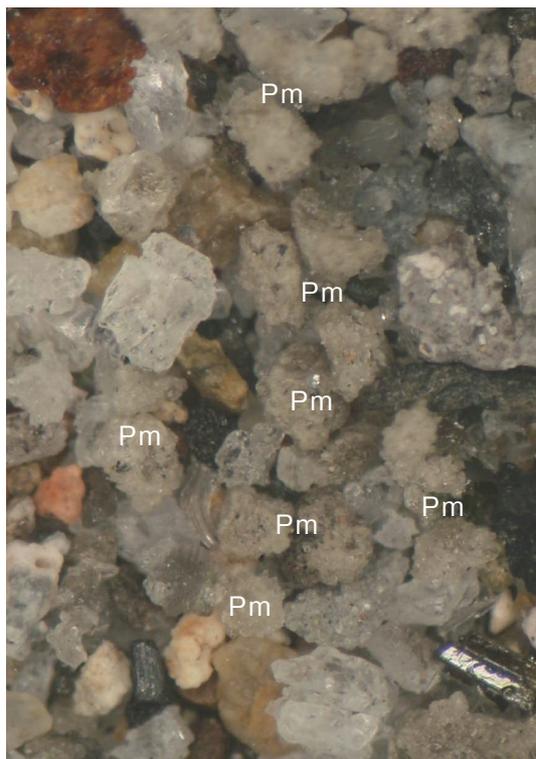


大井宿遺跡第13地点 No12

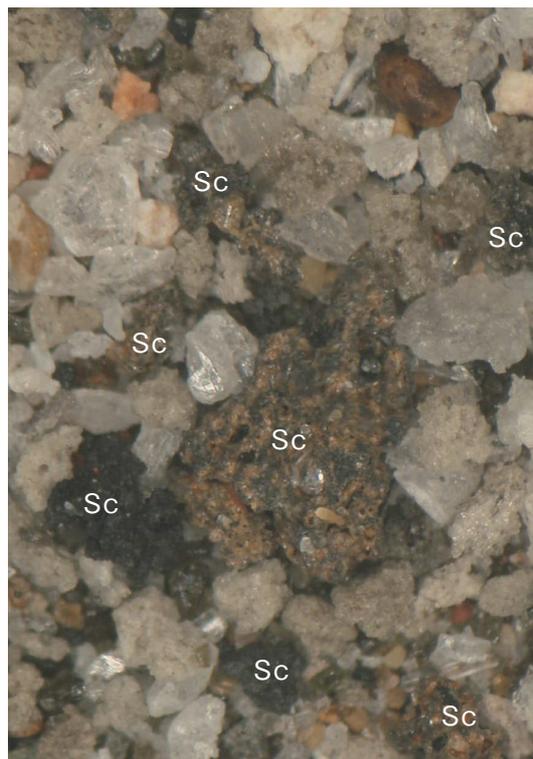




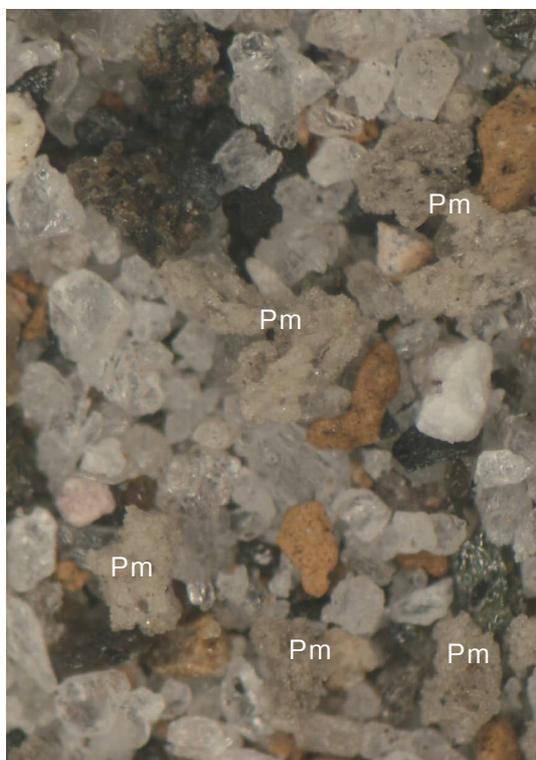
図版 1 軽石・スコリア



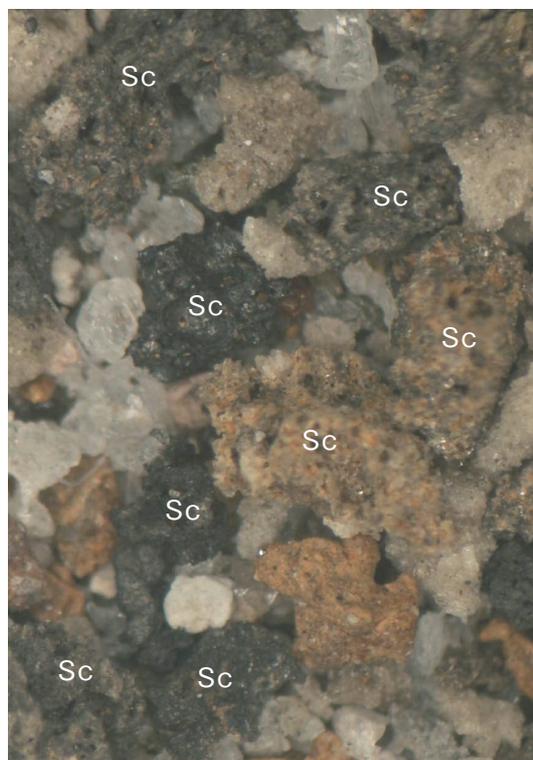
1.As-B の軽石(神明後遺跡第 28 地点堀跡 1 ; 8)



2.新期富士テフラのスコリア  
(神明後遺跡第 28 地点堀跡 1 ; 12)



3.As-B の軽石(駒林遺跡第 1 地点大溝 1 ; 5)



4.新期富士テフラのスコリア  
(駒林遺跡第 1 地点大溝 1 ; 3)

Pm : 軽石. Sc : スコリア.

0.5mm  
1,3

1.0mm  
2,4



## はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の結果得られた成果の記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、日本考古学協会員の今井堯先生をはじめ、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長 吉野 英明

## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査41件と発掘調査15件の報告書である。
2. 2006年度に行なった試掘調査、個人住宅の本調査及び整理作業は、総経費13,404,971円に対し、国庫（6,700,000円）、県費（3,350,000円）の補助金の交付を受け、平成18年4月7日から平成19年3月31日まで実施したものである。
3. 民間開発を原因として行なった8件の本調査は、開発原因者から委託を受けふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

遺跡名・地点名	委 託 者	協 定 期 間
神明後遺跡第28地点	石崎産業株式会社	平成18年6月29日～平成20年3月31日
西ノ原遺跡第135地点	株式会社西武開発	平成18年5月29日～平成20年3月31日
東台遺跡第46地点	小林 金 作	平成18年9月15日～平成20年3月31日
東久保遺跡第64地点	石 川 眞 一	平成18年10月23日～平成20年3月31日
江川南遺跡第22地点	有限会社セイケンハウス	平成18年11月7日～平成20年3月31日
江川南遺跡第23地点	島田行雄・島田久仁子	平成19年2月19日～平成20年3月31日
松山遺跡第40・41地点	株式会社アイダ設計	平成19年2月21日～平成20年3月31日

#### 4. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	高崎直成
担 当 課	生涯学習課文化財保護係	調査担当者	鍋島直久
教 育 長	吉野英明	庶務担当	松原靖子
教 育 次 長	伊藤 修	発掘調査員補	越村 篤
生涯学習課長兼参事	原田 昇	嘱託員	藤牧守絵
主幹兼係長	笹森健一（～平成19年3月31日）	臨時的任用職員	高橋京子
文化財保護係長	坪田幹男（平成19年4月1日～）		

#### 5. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の執筆は縄文遺物を今井 堯が、遺構・その他を高崎直成が行なった。まとめについては文末に記した。

挿図割付：高橋けい子 遺物接合・復元：中田藤子 石器実測：大久保明子、鈴木智恵子、寺井美和子  
 土器実測：石垣ゆき子、大久保明子、鈴木智恵子、寺井美和子、山口妙子 遺構・遺物図トレース：小林登喜枝  
 図版作成：青山奈保美、伊藤綾那、大久保明子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子  
 遺構写真：笹森健一、鍋島直久、高崎直成、越村篤 遺物写真：大久保明子

土器実測の一部を(有)アルケリサーチ、石器実測の一部を(有)文化財 COM に委託した。自然化学分析に関してはバリノ・サーヴェイ(株)に委託した。神明後遺跡第28地点の航空測量図及び空撮は(株)東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。

#### 6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

会田明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小泉功、小出輝雄、酒井智晴、桜井信枝、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賀一、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、藤波啓容、堀善之、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳澤健司、和田晋治

埼玉県教育局生涯学習文化財課、大井郷土資料館、大井遺跡調査会、(有)文化財 COM、(有)アルケリサーチ、(株)東京航業研究所

#### 7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略) 新井和枝、新井礼子、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、稲富亮子、井上晴江、井上麻美子、白井孝、内田潔、遠藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、長田弘毅、小田静夫、小野沢保孝、梶原明美、金子君子、

菊口繁子、木下一郎、小林こずい、西城満期子、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木勝弘、関田成美、関向晶子、高貝しづ子、田村雪江、滝沢久嘉、寺井美和子、中山美穂、中村正、沼澤岩男、根岸年男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、星野辰子、増沢勝実、宮崎達夫、山崎美紀、吉田寛、若林紀美代  
 (富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、島田仁、鈴木美恵子、清水淳、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、中川和弘、成田淑美、羽田美代子、吉田信江、瀬戸加代子  
 〈整理作業参加者〉(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、白井孝、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子、山口妙子

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30  
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山 (ローム)  焼土   
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 磔 ○

(4) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 遺物実測図における screen-tone の指示。

塗彩  煤  煤 (タール状) 

(6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

## 市内遺跡群 3 目次

はじめに	i	II 鶴ヶ舞遺跡第10地点	37頁
例言	ii	III 鶴ヶ舞遺跡第11地点	37頁
凡例	iii	第10章 松山遺跡の調査	39頁
目次	iv	I 遺跡の立地と環境	39頁
挿図目次	vi	II 松山遺跡第25地点	40頁
表目次	vii	III 松山遺跡第37地点	40頁
写真図版目次	viii	IV 松山遺跡第38地点	40頁
		V 松山遺跡第39地点	40頁
		VI 松山遺跡第40地点	42頁
第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果	1頁	VII 松山遺跡第41地点	42頁
第1章 調査の概要	1頁	VIII 松山遺跡第42地点	42頁
I 調査に至る経過	1頁	第11章 江川南遺跡の調査	45頁
II 立地と環境	4頁	I 遺跡の概要	45頁
III 市内の遺跡	4頁	II 江川南遺跡第21地点	46頁
第2章 西遺跡の調査	8頁	III 江川南遺跡第22地点	46頁
I 遺跡の立地と環境	8頁	IV 江川南遺跡第23地点	46頁
II 西遺跡第1地点	8頁	第12章 江川東遺跡の調査	48頁
第3章 北野遺跡の調査	10頁	I 遺跡の立地と環境	48頁
I 遺跡の立地と環境	10頁	II 江川東遺跡第11地点	48頁
II 北野遺跡第1地点	10頁	III 江川東遺跡第12地点	50頁
III 北野遺跡第2地点	10頁	IV 江川東遺跡第13地点	50頁
第4章 川崎遺跡の調査	12頁	第13章 東久保遺跡の調査	51頁
I 遺跡の立地と環境	12頁	I 遺跡の立地と環境	51頁
II 川崎遺跡第21地点	14頁	II 東久保遺跡第64地点	51頁
第5章 ハケ遺跡の調査	17頁	第14章 東久保西遺跡の調査	52頁
I 遺跡の立地と環境	17頁	I 遺跡の立地と環境	52頁
II ハケ遺跡C区7次調査	17頁	II 東中学校西遺跡第17地点	52頁
第6章 滝遺跡の調査	22頁	III 東中学校西遺跡第18地点	52頁
I 遺跡の立地と環境	22頁	第15章 東中学校西遺跡の調査	54頁
II 滝遺跡第12地点	23頁	I 遺跡の立地と環境	54頁
第7章 長宮遺跡の調査	24頁	II 東中学校西遺跡第28地点	54頁
I 遺跡の立地と環境	24頁	III 東中学校西遺跡第29地点	54頁
II 長宮遺跡第25地点	25頁	IV 東中学校西遺跡第30地点	57頁
III 長宮遺跡第26地点	27頁	第16章 駒林遺跡の調査	58頁
第8章 亀居遺跡の調査	29頁	I 遺跡の立地と環境	58頁
I 遺跡の立地と環境	29頁	II 駒林遺跡第1地点	60頁
II 亀居遺跡第61地点	29頁	III 駒林遺跡第2地点	63頁
第9章 鶴ヶ舞遺跡の調査	37頁	IV 駒林遺跡第3地点	63頁
I 遺跡の立地と環境	37頁		

第17章 西ノ原遺跡の調査	69頁	第Ⅱ部 民間開発に伴う本調査の成果	113頁
I 遺跡の立地と環境	69頁	第1章 松山遺跡第40地点の本調査	113頁
II 西ノ原遺跡第136地点	70頁	I 本調査の概要	113頁
III 西ノ原遺跡第137地点	70頁	II 遺構と遺物	113頁
IV 西ノ原遺跡第138地点	70頁	第2章 松山遺跡第41地点の本調査	120頁
V 西ノ原遺跡第139地点	70頁	I 本調査の概要	120頁
第18章 神明後遺跡の調査	72頁	II 遺構と遺物	120頁
I 遺跡の立地と環境	72頁	第3章 江川南遺跡第22地点の本調査	124頁
II 神明後遺跡第28地点	72頁	I 本調査の概要	124頁
III 神明後遺跡第29地点	73頁	II 遺構と遺物	124頁
IV 神明後遺跡第30地点	73頁	第4章 江川南遺跡第23地点の本調査	128頁
第19章 浄禅寺跡遺跡の調査	78頁	I 本調査の概要	128頁
I 遺跡の立地と環境	78頁	II 遺構と遺物	128頁
II 浄禅寺跡遺跡第26地点	78頁	第5章 東久保遺跡第64地点の本調査	144頁
III 浄禅寺跡遺跡第28地点	86頁	I 本調査の概要	144頁
第20章 大井宿遺跡の調査	87頁	II 遺構と遺物	144頁
I 遺跡の立地と環境	87頁	第6章 西ノ原遺跡第135地点の本調査	148頁
II 大井宿遺跡第12地点	87頁	I 本調査の概要	148頁
III 大井宿遺跡第13地点	89頁	II 遺構と遺物	148頁
IV 大井宿遺跡第14地点	92頁	第7章 神明後遺跡第28地点の本調査	157頁
第21章 大井氏館跡遺跡の調査	93頁	I 本調査の概要	157頁
I 遺跡の立地と環境	93頁	II 立地と環境	158頁
II 大井氏館跡遺跡第21地点	93頁	III 遺構と遺物	160頁
第22章 本村遺跡の調査	94頁	第8章 東台遺跡第46地点の本調査	226頁
I 遺跡の立地と環境	94頁	I 本調査の概要	226頁
II 本村遺跡第117地点	95頁	II 遺構と遺物	226頁
III 本村遺跡第118地点	101頁	第Ⅲ部 まとめ	
第23章 大井戸上遺跡の調査	102頁	第1章 2006年度の調査について	239頁
I 遺跡の立地と環境	102頁	第2章 神明後遺跡出土の縄文時代中期塗彩土器について	243頁
II 大井戸上遺跡第5地点	102頁	第3章 ふじみ野市内における縄文時代中期の継続型集落について	249頁
第24章 東台遺跡の調査	103頁	附編 自然科学分析	
I 遺跡の立地と環境	103頁	神明後遺跡および駒林遺跡におけるテフラ分析	253頁
II 東台遺跡第45地点	108頁	抄録	259頁
III 東台遺跡第46地点	108頁	写真図版	261頁
IV 東台遺跡第47地点	109頁		
V 東台遺跡第48地点	109頁		

## 挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	5頁		
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	6頁		
第3図	西遺跡の地形と調査区(1/4,000)	8頁		
第4図	西遺跡第1地点遺構配置図(1/400)	9頁		
第5図	北野遺跡の地形と調査区(1/4,000)	10頁		
第6図	北野遺跡第1・2地点調査区域図(1/300)	11頁		
第7図	川崎遺跡の地形と調査区(1/5,000)	12頁		
第8図	川崎遺跡第21地点遺構配置図(1/300)	15頁		
第9図	川崎遺跡 H51号住居跡(1/60)竈(1/30)溝(1/100)出土遺物(1/4・1/2)	16頁		
第10図	ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)	17頁		
第11図	ハケ遺跡 C区7次調査区域図(1/300)土層図(1/150)	20頁		
第12図	ハケ遺跡 C区7次2~6号住居跡・遺構外出土遺物(1/4)	21頁		
第13図	滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)	22頁		
第14図	滝遺跡第12地点調査区域図(1/300)	23頁		
第15図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	24頁		
第16図	長宮遺跡第25地点調査区域図(1/300)ピット(1/60)	26頁		
第17図	長宮遺跡第26地点調査区域図(1/300)土層図(1/60)	27頁		
第18図	長宮遺跡第25・26地点出土遺物(1/4・2/3)	28頁		
第19図	亀居遺跡の地形と調査区(1/4,000)	29頁		
第20図	亀居遺跡遺構分布図(1/1,500)	30頁		
第21図	亀居遺跡第61地点遺構配置図(1/300)16号住居跡(1/60)炬(1/30)	33頁		
第22図	亀居遺跡第61地点集石土坑(1/30)土坑・ピット(1/60)	34頁		
第23図	亀居遺跡16号住居跡出土遺物①(1/4)	35頁		
第24図	亀居遺跡16号住居跡出土遺物②第61地点ピット・遺構外出土遺物(1/4)	36頁		
第25図	鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区(1/4,000)	37頁		
第26図	鶴ヶ舞遺跡第10・11地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)第10地点礫群(1/30)	38頁		
第27図	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)	39頁		
第28図	松山遺跡第25・37・38・40地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	41頁		
第29図	松山遺跡第39地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)ピット(1/60)出土遺物(1/4)	43頁		
第30図	松山遺跡第41・42地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	44頁		
第31図	江川南遺跡の地形と調査区(1/4,000)	45頁		
第32図	江川南遺跡第21・22・23地点遺構配置図(1/300)土層図(1/150)	47頁		
第33図	江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000)	48頁		
第34図	江川東遺跡第11地点遺構配置図(1/300)土坑・ピット(1/60)出土石器(2/3)	49頁		
第35図	江川東遺跡第12・13地点調査区域図(1/300)	50頁		
第36図	東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)東久保遺跡第64地点調査区域図(1/300)	51頁		
第37図	東久保西遺跡の地形と調査区(1/4,000)	52頁		
第38図	東久保西遺跡第17・18地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)ピット(1/60)	53頁		
第39図	東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000)	54頁		
第40図	東中学校西遺跡第28地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	55頁		
第41図	東中学校西遺跡第29地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	56頁		
第42図	東中学校西遺跡第29地点土坑(1/60)出土遺物(1/4・1/1)30地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	57頁		
第43図	駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)	58頁		
第44図	駒林遺跡遺構分布図(1/2,000)	59頁		
第45図	駒林遺跡第1地点遺構配置図(1/300)	60頁		
第46図	駒林遺跡第1地点溝跡1~3(1/100)	61頁		
第47図	駒林遺跡第1地点茶毘跡1・2(1/30)	62頁		
第48図	駒林遺跡第2地点遺構配置図(1/300)溝1~3(1/100)	64頁		
第49図	駒林遺跡第3地点遺構配置図(1/300)土層図(1/150)	65頁		
第50図	駒林遺跡第3地点土坑(1/60)	66頁		
第51図	駒林遺跡第3地点土坑2・3・井戸・ピット(1/60)溝1・2(1/100)	67頁		
第52図	駒林遺跡第3地点土坑1・井戸・遺構外出土遺物(1/4)	68頁		
第53図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)	69頁		
第54図	西ノ原遺跡第136地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)出土土器(1/4)	70頁		
第55図	西ノ原遺跡第137・138・139地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)出土遺物(1/4)	71頁		
第56図	神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)	72頁		
第57図	神明後遺跡第28・29・30地点遺構配置図(1/500・1/300)土層図(1/150)	74頁		
第58図	神明後遺跡第29地点溝・ピット(1/60)	75頁		
第59図	神明後遺跡第30地点ピット(1/60)	76頁		
第60図	神明後遺跡第29地点溝・遺構外・第30地点出土遺物(1/4)	77頁		
第61図	浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	78頁		
第62図	浄禪寺跡遺跡第26地点遺構配置図(1/300)	80頁		
第63図	浄禪寺跡遺跡第26地点炬穴1~6(1/30)	81頁		
第64図	浄禪寺跡遺跡第26地点炬穴7~10(1/30)	82頁		
第65図	浄禪寺跡遺跡第26地点土坑・ピット(1/60)	83頁		
第66図	浄禪寺跡遺跡第26地点溝(1/60)	84頁		
第67図	浄禪寺跡遺跡第26地点炬穴・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物(1/4・2/3)	85頁		
第68図	浄禪寺跡遺跡第28地点遺構配置図(1/300)溝(1/60)	86頁		
第69図	大井宿遺跡の地形と調査区(1/4,000)	87頁		
第70図	大井宿遺跡第12地点調査区域図(1/400)土層図(1/150)出土遺物(1/4)	88頁		
第71図	大井宿遺跡第13地点遺構配置図(1/300)遺構平面図・土層図(1/60)	90頁		
第72図	大井宿遺跡第13地点出土遺物(1/4・1/2・1/1)	91頁		
第73図	大井宿遺跡第14地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)出土遺物(1/4・1/2)	92頁		
第74図	大井氏館跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)大井氏館跡遺跡第21地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	93頁		
第75図	本村遺跡の地形と調査区(1/5,000)	94頁		
第76図	本村遺跡第117地点遺構配置図(1/300)土層図(1/150)	95頁		
第77図	本村遺跡第117地点溝全体図(1/200)土層図(1/100)	97頁		
第78図	本村遺跡第117地点ピット・土坑・風到木痕(1/60)柵(1/30)	99頁		
第79図	本村遺跡第117地点出土遺物(1/4)	100頁		
第80図	本村遺跡第118地点遺構配置図(1/300)落し穴(1/60)	101頁		
第81図	大井戸上遺跡の地形と調査区(1/4,000)大井戸上遺跡第5地点調査区域図(1/300)土層図(1/150)	102頁		
第82図	東台遺跡の地形と調査区(1/4,000)	103頁		
第83図	東台遺跡遺構分布図(1/2,000)	106頁		
第84図	東台遺跡第45地点遺構配置図(1/1,000)	107頁		
第85図	東台遺跡第46地点遺構配置図(1/300)	108頁		
第86図	東台遺跡第47地点・48地点遺構配置図(1/300)	109頁		
第87図	東台遺跡99号・100号・170号住居跡(1/60)	111頁		
第88図	東台遺跡99号・100号・170号住居跡・遺構外出土土器(1/4)	112頁		
第89図	松山遺跡第40地点遺構配置図(1/300)	113頁		
第90図	松山遺跡遺構分布図(1/3,000)	115頁		
第91図	松山遺跡第40地点 H33号住居跡・遺物出土状況図(1/60)竈(1/30)	116頁		
第92図	松山遺跡第40地点地下室・土坑(1/60)	118頁		
第93図	松山遺跡第40地点ピット・溝(1/60)H33号住居出土遺物(1/4)遺構外出土遺物(2/3)	119頁		
第94図	松山遺跡第41地点遺構配置図(1/300)	120頁		
第95図	松山遺跡第41地点溝1~3(1/100)土層図(1/60)	121頁		
第96図	松山遺跡第41地点土坑(1/60)	122頁		
第97図	松山遺跡第41地点溝出土遺物(1/4・1/1)	123頁		
第98図	江川南遺跡第22地点遺構配置図(1/300)	124頁		
第99図	江川南遺跡第22地点礫群(1/100)土層図・出土状況(1/40)	125頁		
第100図	江川南遺跡第22地点礫群出土石器(2/3)	126頁		
第101図	江川南遺跡遺構分布図(1/2,000)	126頁		
第102図	江川南遺跡第23地点遺構配置図(1/300)	128頁		
第103図	江川南遺跡第23地点旧石器時代遺物出土状況(1/200)	129頁		
第104図	江川南遺跡第23地点礫群1・2・3遺物出土状況(1/40)	130頁		
第105図	江川南遺跡第23地点礫群4・5遺物出土状況・土層図(1/40)	131頁		
第106図	江川南遺跡第23地点礫群出土石器(2/3)	132頁		
第107図	江川南遺跡5号住居跡(1/60)炬(1/30)	134頁		
第108図	江川南遺跡5号住居跡遺物出土状況・江川南遺跡第23地点土坑(1/60)	135頁		
第109図	江川南遺跡第23地点集石(1/60)	136頁		
第110図	江川南遺跡第23地点ピット(1/60)	137頁		
第111図	江川南遺跡第23地点溝1~3(1/100)	138頁		
第112図	江川南遺跡第23地点溝3・4(1/100)	139頁		
第113図	江川南遺跡5号住居跡出土遺物①(1/4)	141頁		
第114図	江川南遺跡5号住居跡出土遺物②集石・土坑・ピット・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)	142頁		
第115図	江川南遺跡1号住居跡(1/60)出土遺物(1/4)	143頁		
第116図	東久保遺跡第64地点遺構配置図(1/300)出土石器(1/4)	144頁		

第117図	東久保遺跡第64地点溝(1/60) ……………	145頁
第118図	東久保遺跡遺構分布図(1/2,000) ……………	147頁
第119図	西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000) ……………	149頁
第120図	西ノ原遺跡第135地点遺構配置図(1/400)土層図(1/60) ……	152頁
第121図	西ノ原遺跡183号住居跡(1/60) ……………	153頁
第122図	西ノ原遺跡183号住居跡遺物出土状況(1/60) 炉1・2(1/30) ……	154頁
第123図	西ノ原遺跡135地点炉穴(1/30)ピット(1/60) ……………	155頁
第124図	西ノ原遺跡183号住居跡・遺構外出土遺物(1/4) ……………	156頁
第125図	神明後遺跡第28地点遺構配置図・断面図(1/400) ……………	157頁
第126図	神明後遺跡遺構分布図(1/1,500) ……………	158頁
第127図	神明後遺跡15号住居跡(1/60) ……………	160頁
第128図	神明後遺跡15号住居跡炉(1/30)遺物出土状況図(1/60) ……	161頁
第129図	神明後遺跡15号住居跡出土土器(1/4) ……………	162頁
第130図	神明後遺跡15号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	163頁
第131図	神明後遺跡16号住居跡出土土器(1/4) ……………	164頁
第132図	神明後遺跡16号住居跡遺物出土状況図(1/60) 炉・埋甕(1/30) ……	165頁
第133図	神明後遺跡15号・17号住居跡(1/60) ……………	167頁
第134図	神明後遺跡17号住居跡炉・埋甕(1/30)遺物出土状況図①(1/60) ……	168頁
第135図	神明後遺跡17号住居跡遺物出土状況図②(1/60) ……………	169頁
第136図	神明後遺跡17号住居跡出土土器①(1/4) ……………	170頁
第137図	神明後遺跡17号住居跡出土土器②(1/4) ……………	171頁
第138図	神明後遺跡17号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	172頁
第139図	神明後遺跡18号・19号住居跡(1/60) ……………	174頁
第140図	神明後遺跡18号住居跡炉・埋甕(1/30) ……………	175頁
第141図	神明後遺跡18号住居跡遺物出土状況図(1/60) ……………	176頁
第142図	神明後遺跡18号住居跡出土土器①(1/4) ……………	177頁
第143図	神明後遺跡18号住居跡出土土器②(1/4) ……………	178頁
第144図	神明後遺跡18号住居跡出土土器③(1/4) ……………	179頁
第145図	神明後遺跡18号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	180頁
第146図	神明後遺跡19号住居跡(1/60) ……………	181頁
第147図	神明後遺跡19号住居跡炉・埋甕(1/30)遺物出土状況図(1/60) ……	182頁
第148図	神明後遺跡19号住居跡出土土器(1/4) ……………	183頁
第149図	神明後遺跡19号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	184頁
第150図	神明後遺跡20号住居跡(1/60) 炉・配石・遺物出土微細図(1/30) ……	185頁
第151図	神明後遺跡20号住居跡遺物出土状況図・出土土器①(1/60,1/4) ……	186頁
第152図	神明後遺跡20号住居跡出土土器②土器(1/4,2/3) ……………	187頁
第153図	神明後遺跡21号住居跡・遺物出土状況図(1/60) ……………	188頁
第154図	神明後遺跡21号住居跡出土土器・石器(1/4,2/3) ……………	189頁
第155図	神明後遺跡22号住居跡(1/60) 炉(1/30) ……………	191頁
第156図	神明後遺跡22号住居跡遺物出土状況図①(1/60) ……………	192頁
第157図	神明後遺跡22号住居跡遺物出土状況図②(1/40) ……………	193頁
第158図	神明後遺跡22号住居跡出土土器①(1/4) ……………	194頁
第159図	神明後遺跡22号住居跡出土土器②(1/4) ……………	195頁
第160図	神明後遺跡22号住居跡出土土器③(1/4) ……………	196頁
第161図	神明後遺跡22号住居跡出土土器④(1/4) ……………	197頁
第162図	神明後遺跡22号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	198頁
第163図	神明後遺跡23・24号住居跡・遺物出土状況図(1/60) ……………	201頁
第164図	神明後遺跡23号住居跡炉(1/30)23・24号住居跡出土土器・石器(1/4,2/3) ……………	202頁
第165図	神明後遺跡25号住居跡・遺物出土状況図(1/60) 炉・埋甕(1/30) ……	204頁
第166図	神明後遺跡28地点土器・石器(1/4,2/3) ……………	204頁
第167図	神明後遺跡28地点土器(1/30)出土土器・石器(1/4) ……………	205頁
第168図	神明後遺跡28地点土器1・2・3(1/30)出土土器(1/4) ……………	206頁
第169図	神明後遺跡28地点土器1~3・風倒木痕(1/60)出土土器(1/4,2/3) ……………	207頁
第170図	神明後遺跡28地点集石1~4(1/30) ……………	208頁
第171図	神明後遺跡28地点集石5~13(1/30) ……………	209頁
第172図	神明後遺跡28地点集石14~20(1/30) ……………	210頁
第173図	神明後遺跡28地点集石21~23(1/30) ……………	211頁
第174図	神明後遺跡28地点集石出土土器・石器(1/4) ……………	212頁
第175図	神明後遺跡28地点土坑・落し穴(1/60) ……………	213頁
第176図	神明後遺跡28地点土坑出土土器・石器(1/4) ……………	214頁
第177図	神明後遺跡 H2号住居跡(1/60) 竈(1/30) ……………	216頁
第178図	神明後遺跡 H2号住居跡遺物出土状況図(1/40) ……………	217頁
第179図	神明後遺跡 H2号住居跡出土土器・石器(1/4,2/3) ……………	218頁
第180図	神明後遺跡28地点堀跡(1/60)出土土器(1/4) ……………	219頁
第181図	神明後遺跡28地点溝跡1~3(1/60) ……………	220頁
第182図	神明後遺跡28地点遺構外出土土器①(1/4) ……………	221頁
第183図	神明後遺跡28地点遺構外出土土器②石製品・金属製品・土製品(1/4) ……………	222頁
第184図	神明後遺跡28地点遺構外出土土器(2/3,1/4) ……………	223頁
第185図	東台遺跡第46地点遺構配置図(1/300) ……………	226頁
第186図	東台遺跡83号住居跡・遺物出土状況図(1/60) 炉(1/30) ……	227頁
第187図	東台遺跡83号住居跡出土土器・石器(1/4,2/3) ……………	228頁
第188図	東台遺跡98号住居跡(1/60) ……………	230頁
第189図	東台遺跡98号住居跡遺物出土状況図(1/60) 炉(1/30) ……	231頁
第190図	東台遺跡98号住居跡出土土器①(1/4) ……………	232頁
第191図	東台遺跡98号住居跡出土土器②(1/4) ……………	233頁
第192図	東台遺跡98号住居跡出土土器③(1/4) ……………	234頁
第193図	東台遺跡98号住居跡出土土器(1/4,2/3) ……………	235頁
第194図	東台遺跡第46地点土坑(1/60) 集石1~4(1/30) ……………	237頁
第195図	東台遺跡第46地点土坑・集石出土土器・石器(1/4) ……………	238頁
第196図	神社仏閣絵図 ……………	241頁
第197図	社地境内取調帳 久田神社境内 ……………	241頁
第198図	本村遺跡遺構分布図(1/3,000) ……………	242頁
第199図	埼玉県内出土の縄文時代中期の塗彩された土器(1/12) ……	247頁
第200図	埼玉県内出土の塗彩文様のある土器集成(1/4) ……………	248頁
第201図	周辺中期前半遺跡分布 ……………	251頁

## 表 目 次

第1表	過去2年間の調査件数と面積一覧 ……………	1頁
第2表	2006(平成18)年度埋蔵文化財調査一覧表 ……………	2頁
第3表	2006(平成18)年度立会い調査一覧表 ……………	3頁
第4表	ふじみ野市遺跡一覧表 ……………	7頁
第5表	縄文時代中期時期細分対比表 ……………	7頁
第6表	川崎遺跡調査一覧表 ……………	13頁
第7表	川崎遺跡古代住居跡一覧表 ……………	14頁
第8表	ハケ遺跡調査一覧表 ……………	18頁
第9表	ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 ……………	18頁
第10表	ハケ遺跡古代住居跡一覧表 ……………	18頁
第11表	滝遺跡調査一覧表 ……………	23頁
第12表	長宮遺跡調査一覧表 ……………	25頁
第13表	長宮遺跡第25地点ピット一覧表 ……………	27頁
第14表	長宮遺跡第25地点出土遺物観察表 ……………	27頁
第15表	亀居遺跡調査一覧表 ……………	31頁
第16表	亀居遺跡住居跡一覧表 ……………	31頁
第17表	亀居遺跡第61地点集石一覧表 ……………	32頁
第18表	亀居遺跡第61地点土坑・ピット一覧表 ……………	32頁
第19表	鶴ヶ舞遺跡第10地点礫群一覧表 ……………	37頁
第20表	松山遺跡第39地点ピット一覧表 ……………	40頁
第21表	江川東遺跡第11地点土坑・ピット一覧表 ……………	50頁
第22表	東中学校西遺跡第29地点土坑一覧表 ……………	56頁
第23表	駒林遺跡調査一覧表 ……………	59頁
第24表	駒林遺跡第1地点遺構一覧表 ……………	62頁
第25表	駒林遺跡第2地点遺構一覧表 ……………	63頁
第26表	駒林遺跡第3地点遺構一覧表 ……………	68頁
第27表	駒林遺跡第3地点出土遺物観察表 ……………	68頁
第28表	神明後遺跡第29地点遺構一覧表 ……………	73頁
第29表	神明後遺跡第30地点遺構一覧表 ……………	76頁
第30表	浄禪寺跡遺跡調査一覧表 ……………	79頁
第31表	浄禪寺跡遺跡第26地点遺構一覧表 ……………	80頁
第32表	浄禪寺跡遺跡第28地点遺構一覧表 ……………	86頁
第33表	大井宿遺跡第12地点出土遺物観察表 ……………	88頁
第34表	大井宿遺跡第13地点土坑・ピット一覧表 ……………	89頁
第35表	大井宿遺跡第13地点出土遺物観察表 ……………	91頁
第36表	大井宿遺跡第14地点出土遺物観察表 ……………	92頁
第37表	本村遺跡第117地点遺構一覧表 ……………	96頁
第38表	本村遺跡第117地点出土遺物観察表 ……………	100頁
第39表	東台遺跡調査一覧表 ……………	104頁
第40表	東台遺跡住居跡一覧表 ……………	105頁
第41表	東台遺跡99号住居跡ピット一覧表 ……………	110頁
第42表	東台遺跡100号住居跡ピット一覧表 ……………	110頁

第43表	東台遺跡170号住居跡ピット一覧表	110頁	第68表	神明後遺跡15号住居跡ピット一覧表	160頁
第44表	松山遺跡調査一覧表	114頁	第69表	神明後遺跡16号住居跡ピット一覧表	164頁
第45表	松山遺跡古代住居跡一覧表	114頁	第70表	神明後遺跡17号住居跡ピット一覧表	166頁
第46表	松山遺跡第40地点遺構一覧表	117頁	第71表	神明後遺跡18号住居跡ピット一覧表	175頁
第47表	松山遺跡 H33号住居跡出土遺物観察表	117頁	第72表	神明後遺跡19号住居跡ピット一覧表	183頁
第48表	松山遺跡第41地点遺構一覧表	122頁	第73表	神明後遺跡20号住居跡ピット一覧表	188頁
第49表	松山遺跡第41地点出土遺物観察表	123頁	第74表	神明後遺跡21号住居跡ピット一覧表	190頁
第50表	江川南遺跡第22地点礫群一覧表	124頁	第75表	神明後遺跡22号住居跡ピット一覧表	190頁
第51表	江川南遺跡第22地点出土石器計測表	126頁	第76表	神明後遺跡23号住居跡ピット一覧表	200頁
第52表	江川南遺跡調査一覧表	131頁	第77表	神明後遺跡24号住居跡ピット一覧表	203頁
第53表	江川南遺跡住居跡一覧表	131頁	第78表	神明後遺跡25号住居跡ピット一覧表	203頁
第54表	江川南遺跡第23地点礫群一覧表	132頁	第79表	神明後遺跡第28地点炉穴一覧表	206頁
第55表	江川南遺跡第23地点出土石器計測表	132頁	第80表	神明後遺跡第28地点集石一覧表	211頁
第56表	江川南遺跡5号住居跡ピット一覧表	133頁	第81表	神明後遺跡第28地点土坑・ピット一覧表	214頁
第57表	江川南遺跡第23地点遺構一覧表	133頁	第82表	神明後遺跡 H2号住居跡出土遺物観察表	217頁
第58表	江川南遺跡第23地点集石一覧表	136頁	第83表	神明後遺跡第28地点堀・溝一覧表	219頁
第59表	江川南遺跡第23地点出土遺物観察表	140頁	第84表	神明後遺跡第28地点出土石器計測表	224頁
第60表	東久保遺跡第64地点土坑・ピット一覧表	144頁	第85表	東台遺跡83号住居跡ピット一覧表	226頁
第61表	東久保遺跡調査一覧表	146頁	第86表	東台遺跡98号住居跡ピット一覧表	229頁
第62表	西ノ原遺跡183号住居跡ピット一覧表	148頁	第87表	東台遺跡第46地点土坑一覧表	236頁
第63表	西ノ原遺跡調査一覧表	150頁	第88表	東台遺跡第46地点集石一覧表	237頁
第64表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	151頁	第89表	東台遺跡第46地点出土石器計測表	237頁
第65表	西ノ原遺跡183号住居跡出土石器計測表	155頁	第90表	埼玉県内出土塗彩土器集計表	243頁
第66表	神明後遺跡調査一覧表	159頁	第91表	埼玉県内出土塗彩土器一覧表	246頁
第67表	神明後遺跡住居跡一覧表	159頁	第92表	ふじみ野市内縄文時代遺跡消長表	252頁

## 写真図版

巻頭図版1	神明後遺跡第28地点全景・17号住居跡出土浅鉢		写真図版31	江川南遺跡第23地点5号住居跡・集石	291頁
巻頭図版2	神明後遺跡第28地点22号住居跡・H2号住居跡・大井宿第13地点出土遺物		写真図版32	江川南遺跡第23地点土坑・溝・全景	292頁
巻頭図版3	自然科学分析		写真図版33	出土遺物(江川南遺跡第23地点)	293頁
写真図版1	西遺跡第1地点、北野遺跡第1・2地点、川崎遺跡H51号住居跡	261頁	写真図版34	出土遺物(江川南遺跡第23地点)、東久保遺跡第64地点	294頁
写真図版2	川崎遺跡H51号住居跡、ハケ遺跡C区7次調査、滝遺跡第12地点、長宮遺跡第25・26地点	262頁	写真図版35	西ノ原遺跡183号住居跡	295頁
写真図版3	亀居遺跡16号住居跡	263頁	写真図版36	西ノ原遺跡第135地点、出土遺物	296頁
写真図版4	亀居遺跡16号住居跡、鶴ヶ舞遺跡第10・11地点	264頁	写真図版37	神明後遺跡第28地点全景・15号住居跡	297頁
写真図版5	松山遺跡第25・37~42地点	265頁	写真図版38	神明後遺跡15・16号住居跡	298頁
写真図版6	江川南遺跡第21~23地点、江川東遺跡第11・12地点	266頁	写真図版39	神明後遺跡17号住居跡	299頁
写真図版7	江川東遺跡第13地点、東久保遺跡第64地点、東久保西遺跡第17地点、東中学校西遺跡第28~30地点	267頁	写真図版40	神明後遺跡18号住居跡	300頁
写真図版8	駒林遺跡第1地点	268頁	写真図版41	神明後遺跡19号住居跡	301頁
写真図版9	駒林遺跡第2・3地点	269頁	写真図版42	神明後遺跡20号住居跡	302頁
写真図版10	駒林遺跡第3地点、西ノ原遺跡第136~139地点	270頁	写真図版43	神明後遺跡22号住居跡	303頁
写真図版11	神明後遺跡第28~30地点、浄禅寺跡遺跡第26地点	271頁	写真図版44	神明後遺跡20・21・23・24号住居跡	304頁
写真図版12	浄禅寺跡遺跡第26地点	272頁	写真図版45	神明後遺跡25号住居跡・石囲い屋外埋設土器	305頁
写真図版13	浄禅寺跡遺跡第26地点	273頁	写真図版46	神明後遺跡第28地点屋外埋設土器・炉穴	306頁
写真図版14	浄禅寺跡遺跡第26・28地点、大井宿遺跡第12・13地点	274頁	写真図版47	神明後遺跡第28地点集石	307頁
写真図版15	大井宿遺跡第13・14地点、大井氏館跡遺跡第21地点、本村遺跡第117地点	275頁	写真図版48	神明後遺跡第28地点集石	308頁
写真図版16	本村遺跡第117地点	276頁	写真図版49	神明後遺跡第28地点集石・土坑	309頁
写真図版17	本村遺跡第118地点、大井戸上遺跡第5地点、東台遺跡第45~48地点	277頁	写真図版50	神明後遺跡第28地点溝・堀	310頁
写真図版18	東台遺跡第48地点、整理作業	278頁	写真図版51	神明後遺跡第28地点H2号住居跡・見学会	311頁
写真図版19	出土遺物(川崎遺跡H27号住居跡、ハケ遺跡C区7次調査、長宮遺跡第25・26地点)	279頁	写真図版52	出土遺物(神明後遺跡15・16号住居跡)	312頁
写真図版20	出土遺物(亀居遺跡第61地点16号住居跡、松山遺跡第39地点)	280頁	写真図版53	出土遺物(神明後遺跡16・17号住居跡)	313頁
写真図版21	出土遺物(江川東遺跡第11、駒林遺跡第3地点、東中学校西遺跡第24地点、西ノ原遺跡第136・137地点、神明後遺跡第29・30地点、浄禅寺跡遺跡第26地点)	281頁	写真図版54	出土遺物(神明後遺跡17号住居跡)	314頁
写真図版22	出土遺物(本村遺跡第117地点、大井宿遺跡第13・14地点、東台遺跡第48地点)	282頁	写真図版55	出土遺物(神明後遺跡18号住居跡)	315頁
写真図版23	松山遺跡第40地点全景・H33号住居跡	283頁	写真図版56	出土遺物(神明後遺跡18号住居跡)	316頁
写真図版24	松山遺跡第40地点H33号住居跡・土坑	284頁	写真図版57	出土遺物(神明後遺跡18~20号住居跡)	317頁
写真図版25	松山遺跡第40地点土坑・溝・作業風景	285頁	写真図版58	出土遺物(神明後遺跡20・21号住居跡)	318頁
写真図版26	松山遺跡第41地点全景・溝	286頁	写真図版59	出土遺物(神明後遺跡21・22・23・25号住居跡)	319頁
写真図版27	松山遺跡第41地点溝・土坑	287頁	写真図版60	出土遺物(神明後遺跡22号住居跡)	320頁
写真図版28	出土遺物(松山遺跡第40・41地点)	288頁	写真図版61	出土遺物(神明後遺跡22号住居跡)	321頁
写真図版29	江川南遺跡第22地点・出土遺物	289頁	写真図版62	出土遺物(神明後遺跡22~25号住居跡)	322頁
写真図版30	江川南遺跡第23地点礫群	290頁	写真図版63	出土遺物(神明後遺跡第28地点屋外埋設土器、集石)	323頁
			写真図版64	出土遺物(神明後遺跡第28地点集石・土坑・炉穴)	324頁
			写真図版65	出土遺物(神明後遺跡第28地点H2号住居跡)	325頁
			写真図版66	出土遺物(神明後遺跡第28地点遺構外)	326頁
			写真図版67	東台遺跡第46地点83・98号住居跡	327頁
			写真図版68	東台遺跡第46地点98号住居跡・土坑・集石	328頁
			写真図版69	出土遺物(東台遺跡第46地点83・98号住居跡)	329頁
			写真図版70	出土遺物(東台遺跡第46地点83・98号住居跡)	330頁
			写真図版71	出土遺物(東台遺跡第46地点83・98号住居跡・集石・土坑・遺構外)	331頁

## 第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う本調査の成果

### 第1章 調査の概要

#### I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。平成17年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生し、面積14.67km<sup>2</sup>、人口は平成19年11月末現在105,150人である。

旧大井町は畑作を中心とする農村地帯であり、旧上福岡市も畑作と低地での稲作を中心とする農村地帯であった。

昭和の初期、太平洋戦争時には福岡に通信施設や火工廠（造兵廠）が建設された。

戦後は、昭和30年代以降に中・小の宅地開発と団地が誕生し、人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。

昭和60年代以降は、旧大井町地域で大規模な土地区画整理事業が進み、約8割の埋蔵文化財が地区内に位置するため発掘調査が活発に行なわれている。現在は上福岡駅周辺の再開発が行なわれている。

市では国庫補助を受けて、平成17年から「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和53年から合併まで）として試掘調査・確認調査と個人住宅建設に伴う本調査を実施してきた。また、民間の開発に対処する本調査も、原因者と協議の上協定書並びに契約書を締結し、原因者負担のもと、教育委員会が主体となって調査を実施している。

遺跡の調査は、庁内関係各課と連絡調整をして行ってきた。農業委員会事務局からは農地転用許可申請段階、建設課からは建築確認申請段階、都市整備課から

は開発事前協議の申請段階でそれぞれチェックされる。教育委員会は遺跡地図と照合のうえ、遺跡包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して現地踏査を実施し、遺跡の状況を確認する。そのうえで遺跡に影響をおよぼすとみなされる工事主体者に連絡し協議を行った。

その協議後、文化財保護法第99条第5項にもとづき民間・公共事業を問わず確認調査をすべて公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施してきている。また事業者が個人であって専その個人の用に供する住宅の建設に伴う調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2006年度、国庫・県費補助対象の調査を23件、市単独費対象の調査29件を合わせて52件の試掘及び発掘調査を実施した。試掘調査の結果本調査を行うことになったのは、個人住宅建設に伴う本調査が8件、公共事業に伴う本調査が1件、民間開発に伴う本調査は8件である。

開発面積は60,976m<sup>2</sup>で、そのうち実質調査面積は21,727m<sup>2</sup>である。亀久保地区、大井・苗間地区の区画整理事業に続いて、東久保土地区画整理事業に伴う道路造成がほぼ終了し、今後ますます民間開発の急増が見込まれるなかで、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められてくる場所である。

参考までに、過去一年間の調査件数と面積を第1表にあげてみる。また、2006年度に行った調査は第2～3表のとおりである。

第1表 過去2年間の調査件数と面積一覧

年度	件数・内訳	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
		開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	
2005(平成17)年度		56件	3件	10件	個人住宅26、共同住宅4、分譲住宅10、店舗7、店舗併用住宅2、鉄塔1、道路1、宅地造成3、公園造成1
		33,253	509	8,340	
2006(平成18)年度		54件	8件	9件	個人住宅23、共同住宅7、集合住宅・店舗建設1、分譲住宅5、店舗4、園舎改築工事1、建物解体工事1、宅地造成8、学生寮1、保育所建設1、小学校建設1、コンテナボックス設置1
		60,976	1,340	26,988	

第2表 2006(平成18)年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (㎡)	開発面積 (㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	西遺跡1地点	西2丁目2068番1,3,4/2069番1	3,000	3,467	共同住宅/分譲住宅	2007/3/12~26	2007/6/4~8/1	縄文遺構検出
2	北野遺跡1地点	北野2丁目2110番1の一部 2112番1	44	408	分譲住宅2棟	2006/4/7		遺構遺物なし
3	北野遺跡3地点	北野1丁目3061番4		148	分譲住宅2棟	2006/4/28		遺構遺物なし
4	川崎遺跡21地点	川崎1-6-10の一部	124	298	個人住宅建設	2006/4/11	2006/4/14~20	平安住居跡1軒、溝検出
5	ハケ遺跡7地点	福岡3-2	130	666	宅地造成	2006/7/10~22		縄文、奈良平安遺構検出
6	滝遺跡第12地点	滝2丁目5-3の一部及び5-4の一部	80	472	個人住宅建設	2007/2/6		遺構遺物なし
7	長宮遺跡25地点	中丸1丁目4番地8	20	1,161	個人住宅建設	2007/2/15~16		縄文遺構遺物検出
8	長宮遺跡26地点	中丸1丁目4番地8	24	1,161	個人住宅建設	2007/2/15~16		縄文遺構遺物検出
9	亀居遺跡61地点	亀久保2-13-4の一部	88	171	個人住宅建設	2006/10/4	2006/10/10~10/13	縄文住居跡1軒 縄文遺構検出
10	鶴ヶ舞遺跡10地点	鶴ヶ舞1丁目64番6	20	96	個人住宅建設	2006/6/5		旧石器礫群検出
11	鶴ヶ舞遺跡11地点	鶴ヶ舞1丁目65番2,6	420	1,316	建物解体工事	2006/9/21~10/5		遺構遺物なし
12	松山遺跡37地点	松山2丁目6番10,13	60	228	個人住宅建設	2006/4/13		遺構遺物なし
13	松山遺跡38地点	仲1丁目4-3,9,12,13,24	76	2,176	宅地造成	2006/5/29		遺構遺物なし
14	松山遺跡39地点	築地2丁目3-10	330	937	宅地造成7区画	2007/1/10~20		遺構なし
15	松山遺跡40地点	築地1丁目1-5	500	1,047	宅地造成7区画	2007/2/2~8	2007/2/21~3/9	奈良住居跡1軒、中世遺構検出
16	松山遺跡41地点	中ノ島1丁目2-5	330	1,281	宅地造成9区画	2007/2/7~9	2007/2/21~3/5	中世遺構遺物検出
17	松山遺跡42地点	仲2丁目3番15	12	108	個人住宅建設	2007/2/13		遺構遺物なし
18	江川南遺跡21地点	東久保1-29-1	24	99	個人住宅建設	2006/10/11		遺構遺物なし
19	江川南遺跡22地点	東久保132-11	90	208	分譲住宅2棟	2006/10/11~11/6	2006/11/7~11/9	旧石器礫群検出
20	江川南遺跡23地点	東久保1丁目121番1	610	1,011	分譲住宅9棟	2007/1/24~2/1	2007/2/19~3/16	旧石器礫群、縄文住居跡1軒、縄文遺構検出
21	江川東遺跡11地点	東久保1丁目162番1,14	200	674	分譲住宅	2006/11/9~11/15		遺構検出
22	江川東遺跡12地点	東久保1丁目27-3	6	72	宅地造成	2006/11/10		遺構遺物なし
23	江川東遺跡13地点	東久保1丁目155番4	24	114	個人住宅建設	2006/8/11		遺構遺物なし
24	東久保遺跡64地点	ふじみ野2丁目18-6の一部	112	437	共同住宅建設	2006/10/12~10/20	2006/10/24~26	中世~近世溝検出
25	東久保西遺跡17地点	ふじみ野2丁目9番1,2,3	220	919	共同住宅建設	2006/10/26		遺構遺物なし
26	東久保西遺跡18地点	ふじみ野2丁目11-8,11-15	128	478	個人住宅建設	2007/1/16~19		遺構遺物なし
27	東中学校西遺跡28地点	ふじみ野1丁目1-13,14,15,32,23	680	1,568	共同住宅建設	2006/4/24~5/10		遺構遺物なし
28	東中学校西遺跡29地点	ふじみ野4-4-1	600	2,004	店舗建設	2006/5/15~19,7/28~8/1		縄文土坑検出
29	東中学校西遺跡30地点	ふじみ野3-10-13	56	634	保育所建設	2006/7/3		遺構遺物なし
30	駒林遺跡1地点	駒林土地区画整理事業地内 20街区4.8.9	146	646	共同住宅建設	2006/7/13~8/2		堀跡、茶毘跡検出
31	駒林遺跡2地点	駒林土地区画整地17街区 7,8の一部	80	421	専用住宅建設	2006/11/21~29		堀跡検出
32	駒林遺跡3地点	駒林土地区画整地21街区 3.4画地	333	1,916	店舗建設	2006/11/30~12/18		近世遺構検出
33	西ノ原遺跡135地点	うれし野1丁目226-1	1,160	3,342	集合住宅・店舗建設	2006/3/14~4/28	2006/5/29~6/19	縄文住居跡1軒、炉穴検出
34	西ノ原遺跡136地点	苗間1-13-22,23	44	630	学生寮	2006/6/23		遺構遺物なし
35	西ノ原遺跡137地点	うれし野2丁目17番5,6,7	208	861	共同住宅建設	2006/8/3~7		遺構遺物なし
36	西ノ原遺跡138地点	旭1丁目4-7,4-8	40	247	個人住宅建設	2006/11/21~22		遺構遺物なし
37	西ノ原遺跡139地点	うれし野1-4-4,5,6	16	474	共同住宅建設	2007/2/1		遺構遺物なし
38	神明後遺跡28地点	苗間神明後306-1	1,200	2,171	宅地造成	2006/5/8~31	2006/6/29~10/5	縄文住居跡11軒、集石、炉穴、溝検出

	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (㎡)	開発面積 (㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
39	神明後遺跡29地点	苗間神明後303-21, 24	52	136	個人住宅建設	2006/5/8～11	2006/5/12～19	縄文遺物、古代～中世溝検出
40	神明後遺跡30地点	苗間神明後303-1	60	101	個人住宅建設	2006/5/8～19	2006/12/14～19	縄文遺物遺構/近世柱穴検出
41	浄禅寺跡遺跡26地点	苗間神明後354-23	112	112	個人住宅建設	試掘調査済み(2005.3)	2006/4/17～28	縄文遺構遺物検出
42	浄禅寺跡遺跡26地点	苗間神明後354-24	114	114	個人住宅建設	試掘調査済み(2005.3)	2006/6/7～15	縄文遺構遺物検出
43	浄禅寺跡遺跡28地点	苗間字東久保719-7, 720-1	22	2,478	園舎改築工事	2007/1/23		溝検出
44	大井宿遺跡12地点	大井1丁目6-22	110	2,664	事務所兼店舗及び工場建設	2006/6/13～16		近世遺構検出
45	大井宿遺跡13地点	大井1-3-32	60	151	個人住宅建設	2006/8/21	2006/8/22～24	近世遺構遺物検出
46	大井宿遺跡14地点	大井1丁目2-19, 2-20	112	944	コンテナボックス設置	2007/3/27～29		近世遺構検出
47	大井氏館跡遺跡21地点	大井1丁目7-15	22	174	個人住宅建設	2006/5/22		遺構遺物なし
48	本村遺跡117地点	大井2-11-4, 6の一部	1,582	1,582	店舗建設	2006/3/22～4/14		中世遺構遺物検出
49	本村遺跡118地点	市沢2丁目12番13	80	257	個人住宅建設	2006/5/24～25	2006/5/25	縄文遺構検出
50	大井戸上遺跡5地点	大井字東台739番14	10	326	個人住宅建設	2006/7/10		遺構遺物なし
51	東台遺跡45地点	大井字東台710-1, 711-1, 717-1.2	7,971	17,391	小学校建設	2006/5/31～9/1	2006/9/8～2007/3/7	旧石器石器群、縄文遺構遺物検出
52	東台遺跡46地点	大井字東台626-11	80	100	宅地造成	2006/9/4～6	2006/9/15～28	縄文住居跡2軒検出
53	東台遺跡47地点	大井字東台602番4, 602番5	80	320	個人住宅建設	2006/9/19～20		遺構遺物なし
54	東台遺跡48地点	大井字東台649-21	25	60	個人住宅建設	2007/1/16～26		縄文住居跡3軒検出
合計			21,727	43,585				

第3表 2006(平成18)年度立会い調査一覧表

	遺跡名	申請地住所	開発面積	原因	立会日	再開発時の対応
1	北野遺跡	北野2丁目2119番2.4の各一部	217	鉄骨2階建て長屋建設	2007.1.24	
2	北野遺跡	北野2丁目2119番2.4の各一部. .3,5	221	専用住宅2階建て	2007.1.24	
3	北野遺跡	北野1丁目3115-8	51	専用住宅(木造3階建)建設	2007.2.7	遺構遺物なし
4		大井武蔵野1273-1	7,398	ターミナル倉庫	2006.9.20	
5	鶴ヶ岡外	亀久保字大野原1644-10	119	専用住宅(2階建て)	2006.9.14	
6		鶴ヶ岡2丁目27-4	1,145	共同住宅	2006.6.6	
7		大井武蔵野406-2,3	2,300	店舗	2006.10.25	
8		新田2丁目423-3, 424-1, 425の一部, 428の一部	273	専用住宅(2階建て)建設	2006.4.19	盛土保存
9	西ノ原遺跡98地点	苗間1丁目13-13	206	個人住宅建設	2007.3.9	
10	北野遺跡	北野2-1788-1	158	専用木造住宅(3階建)建設2棟		盛土保存
合計			11,818			

## II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には富士見川越有料道路、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを發する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけての地域が属する。荒川の支流である新河岸川は、川越市に水源を發し武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、川越市、ふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て荒川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

## III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。市内の遺跡を、時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】一番北の川越江川では右岸高台に礫群・石器群を検出する鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡があり、縄文時代中期の集落である西遺跡へと続く。川崎貝塚として有名な川崎遺跡は荒川低地に張り出した舌状台地に立地し、縄文時代早期から後期までの住居跡を検出する。

川崎遺跡を回り込んだ新河岸川は台地東縁をなめるように流れ、急峻な崖を形成する。崖線上に縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成される。舌状台地の南側は一段低い立川段丘面が形成され、清水が流れる。下流右岸の長宮遺跡では微高地上に縄文時代早期~後期の集落が形成される。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地に接して縄文時代中期前半の亀居遺跡があり、対岸の江川南遺跡でも住居を検出する。旧石器時代（立川ローム第IV層）の礫群もこの2遺跡で検出している。最下流の低地に形成された微高地上には縄文時代前期集落の鷲森遺跡がある。

福岡江川の900m南にはさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡をはじめ、10遺跡が存在する。縄文時代の集落は時代を追うごとに対岸の中沢遺跡、下流の神明後遺跡、苗間東久保遺跡へ拠点を移していく。

さかい川の800m南に砂川堀が流れるが、流域には大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川が流れを發する最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域であるふじみ野市では、砂川右岸が段丘となり5~6mの急崖を形成している。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。砂川左岸、低位台地上では市内で最古の時期であるAT降灰前（立川ローム第VII層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出した。縄文時代には上流の小田久保遺跡で小規模な集落の存在が考えられるが、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地の自然堤防上に立地する伊佐島遺跡では弥生時代後期の環濠集落が存在する。

舌状台地東端の崖線上に立地する権現山遺跡は古墳時代前期の古墳群で、方墳11基の他、2号墳は古墳時代初期の前方後方墳として注目される。古墳時代中期になると古墳の造営は北西の権現山北古墳群に移る。

古墳時代の集落は川崎遺跡と権現山遺跡、上福岡貝塚、古墳群南の滝遺跡で検出している。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀代には川崎・上福岡の舌状台地の西側に川崎横穴墓群、東側に富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡や長宮遺跡、松山遺跡など一段低い段丘面にて展開し、広範囲に散在して検出する。8世紀代には前述遺跡の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、滝遺跡、神明後遺跡でも検出し、9世紀以降10世紀まではさらに伊佐島遺跡、東台遺跡、東久保南遺跡、西ノ原遺跡でも住居を検出しているが、多数の住居を検出するのは川崎遺跡、ハケ遺跡、松山遺跡であり、特にハケ遺跡では鍔帯金具が、川崎遺跡では瓦塔の破片と布目瓦が出土している。

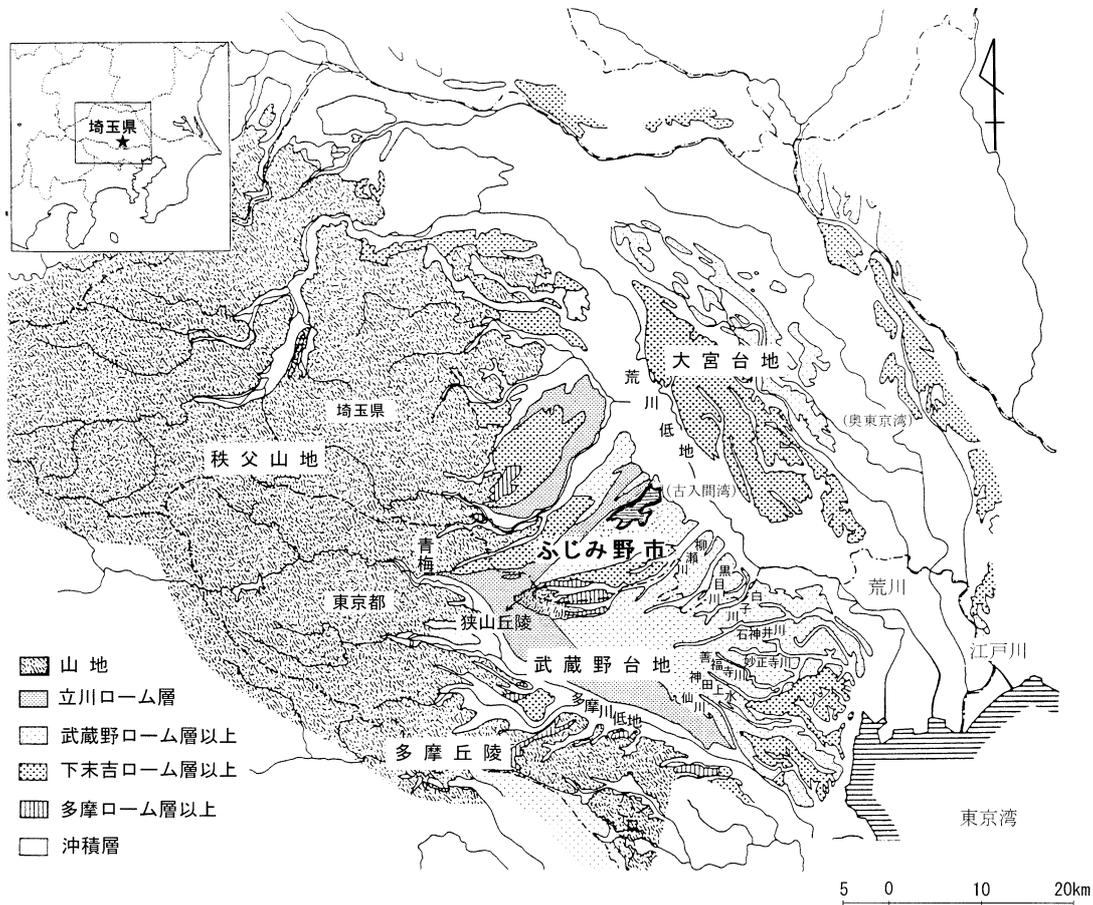
奈良時代（8世紀中葉）、東台遺跡に製鉄遺跡が現

れ、9世紀前半まで続く。

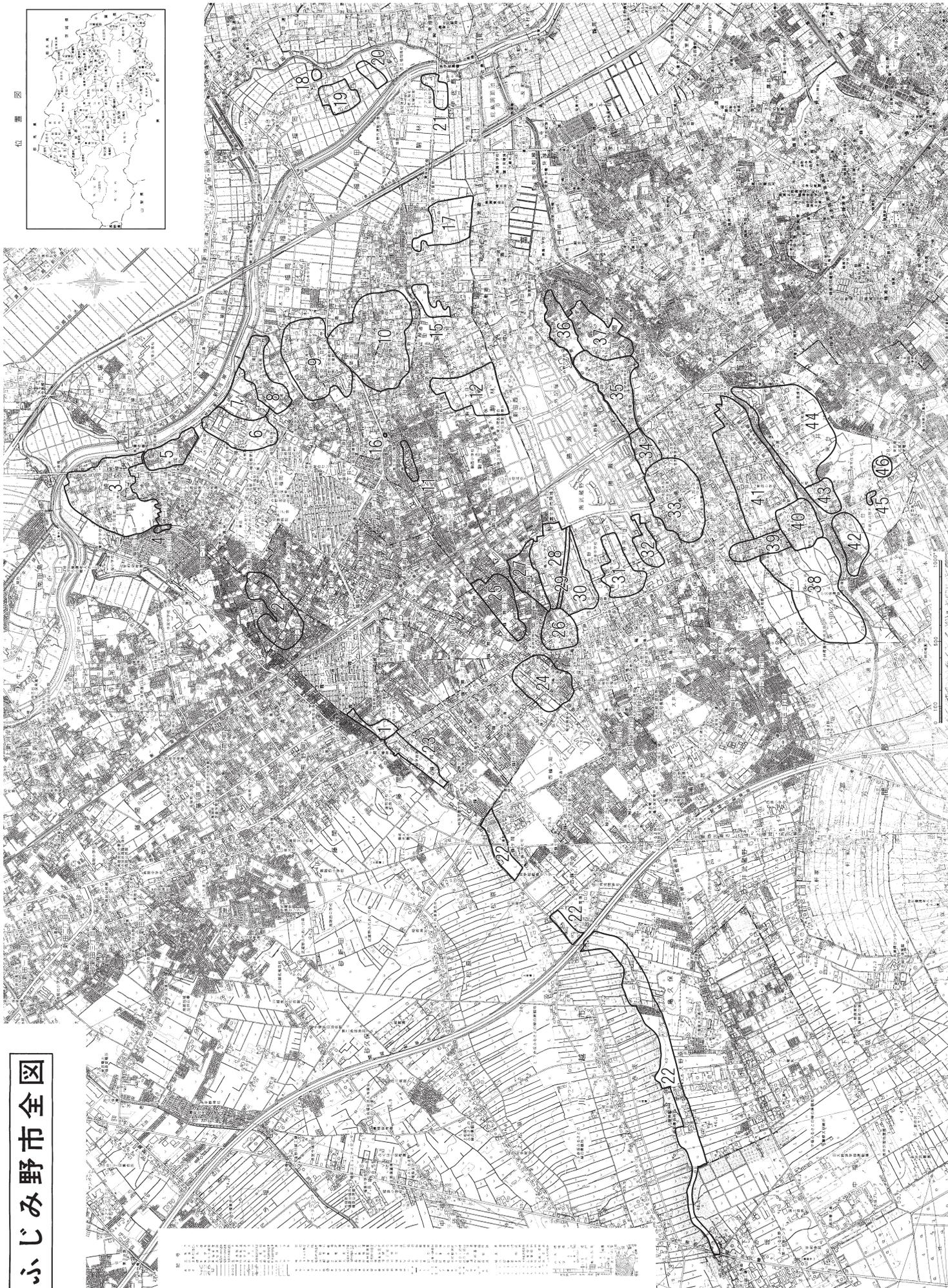
【中世】駒林遺跡では14世紀代の蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡等で13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出するようになり、15世紀以降中世集落が発展していったと思われる。16世紀後半から17世紀前半にかけては川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地と思われる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲まれ、中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、新河岸舟運で栄えた福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形



第4表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号	No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	西 遺 跡	縄文中期の集落跡	25-001	24	亀 居 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
2	北 野 遺 跡	縄文中期の散布地	25-002	25	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
3	川 崎 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003	26	江 川 南 遺 跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
4	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004	27	江 川 東 遺 跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
5	ハ ケ 遺 跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005	28	東 久 保 遺 跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
6	上 福 岡 貝 塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006	29	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006
7	権 現 山 遺 跡 (古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群	25-007	30	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
8	滝 遺 跡	古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-008	31	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
9	長 宮 遺 跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009	32	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
10	松 山 遺 跡	奈良・平安の集落跡	25-010	33	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
11	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011	34	中 沢 前 遺 跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
12	駒 林 遺 跡 (駒林中世墳墓)	中世の堀跡、中世の墳墓(駒林中世墳墓・駒林新田前遺跡を2007年に統合)	25-013	35	神 明 後 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
15	福 岡 新 田 遺 跡	散布地	25-015	36	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
16	福 遺 跡	古墳後期の横穴墓	25-023	37	浄 禅 寺 跡 遺 跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡	30-022
17	鷺 森 遺 跡	縄文前期の集落跡	25-017	38	小 田 久 保 遺 跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
18	天 神 廻 遺 跡	古墳中期の散布地	25-018	39	大 井 宿 遺 跡	近世～近代の宿場跡	30-010
19	城 山 遺 跡	中・近世の館跡	25-019	40	大井氏館跡遺跡 大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
20	川 袋 遺 跡	奈良・平安の散布地	25-020	41	本 村 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
21	伊 佐 島 遺 跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021	42	西 台 遺 跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
22	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036	43	大 井 戸 上 遺 跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
23	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047	44	東 台 遺 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
				45	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	
				46	石 塔 畑	中世の散布地	30-027

第5表 縄文時代中期時期細分対比表

本書 2007 ①	安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ②	植 木 弘 ③ 1994	黒尾和久 ④ 1995	谷 井 他 ⑤ 1982	考古学協会 ⑥ 1981			
猪沢・阿玉台1b古	阿玉台1b古・猪沢	猪沢・阿玉台1b	中 前 期 前 中 半 葉 勝 後 坂 半	1a中	阿玉台1b前 Ⅳb	Ⅱ期 阿玉台出現期		
勝坂1古・新道古・阿玉台1b新	勝坂第Ⅰ様式	勝坂Ⅰ様式		1a新	阿玉台1b後 Va	Ⅲ期 (勝坂最古段階)		
勝坂1新・新道新・阿玉台Ⅱ古	Ⅱ様式	Ⅱ		1b			Vb	
勝坂Ⅱ古・藤内古・阿玉台Ⅱ新 Ⅱ新・藤内新	Ⅲ様式 Ⅳ様式	Ⅲ Ⅳ		2a古	勝 坂 式	Ⅵ	Ⅳ期 (勝坂盛時段階)	
勝坂Ⅲ古・井戸尻・阿玉台Ⅲ古 新 阿玉台Ⅲ新	Ⅴ様式 Ⅵ様式	Ⅴ Ⅵ		2a新		Ⅶ	Ⅴ期 (勝坂終末)	
加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ様式	加曾利EⅠ直前b		2b		Ⅷ		
		a		3a	加 曾 利 E 式	Ⅸa Ⅸb X XI XIIa XIIb XIII XIV	加曾利EⅠ古 加曾利EⅠ新 加曾利EⅡ 加曾利EⅢ 加曾利EⅣ	
		c		3b古				Ⅹa
古相		1		3b新				
加曾利EⅠ新	加曾利EⅡ様式	加曾利EⅠ式		E				Ⅹ
中相		2		1a				
新相		3		1b				Ⅻa
		4	1c	Ⅻb				
		後	2a					Ⅻ
		半	2b	Ⅻ				
		1	2c古					Ⅻ
古相	加曾利EⅢ様式	加曾利EⅡ式	2c新	Ⅻ				
中相		2	3a					Ⅻ
新相		3	3b	Ⅻ				
加曾利EⅡ		加曾利EⅢ式	3c		Ⅻ			
		1	E4	Ⅻ				
加曾利EⅢ	a	2	4		Ⅻ			
	加曾利EⅣ様式			Ⅻ				
加曾利EⅣ	b				Ⅻ			

## 第2章 西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

西遺跡は、藤間江川に面した標高22mの台地北縁、低地との比高差8m以上の急峻な崖面上に立地する南北150m、東西200m以上の遺跡である。上福岡駅まで600m位置する利便性のため、早くから宅地開発されるが、一部は畑、牧場等が残っていた。

周辺の遺跡は、上流に隣接して旧石器時代の礫群・石器群が広がる鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、最上流に鶴ヶ岡外遺跡がある。また、藤間江川の支谷をはさんだ対岸には川越市藤原町遺跡があり、八幡神社遺跡とともに縄文時代の集落が広がる。さらに下流へ向かうと、「川崎貝塚」として著名な川崎遺跡、川崎横穴墓群があり、旧石器時代から縄文、古墳、飛鳥・奈良・平安、中近世にわたる複合遺跡となる。

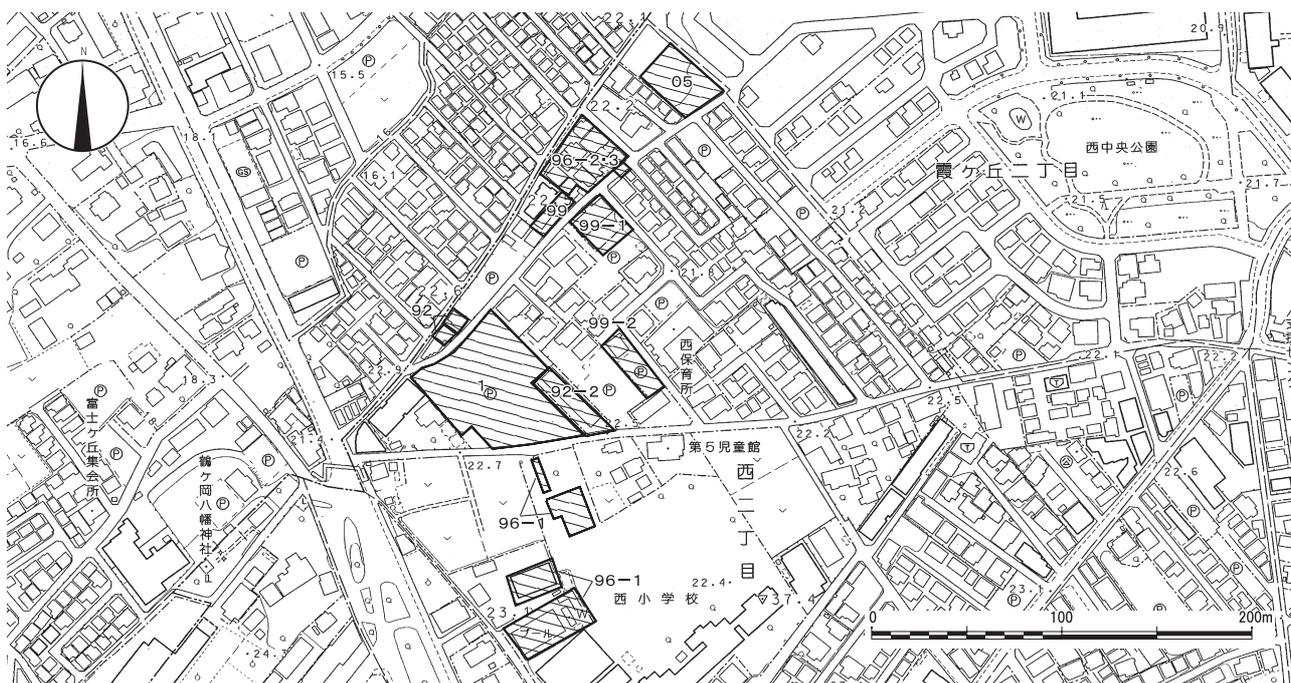
1992年3月、駐車場造成に伴い約3,000㎡が発掘調査され、縄文時代中期中葉の勝坂期～加曾利EⅠ期の住居跡17軒、集石土坑、土坑等を検出、1996年の第2・3次調査でも縄文時代中期勝坂期の住居跡を検出し、弧状に分布する縄文集落が明らかとなってきた。2007年月現在、13ヶ所で試掘及び発掘調査が行われ、時期不明の溝跡なども検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

### II 西遺跡第1地点

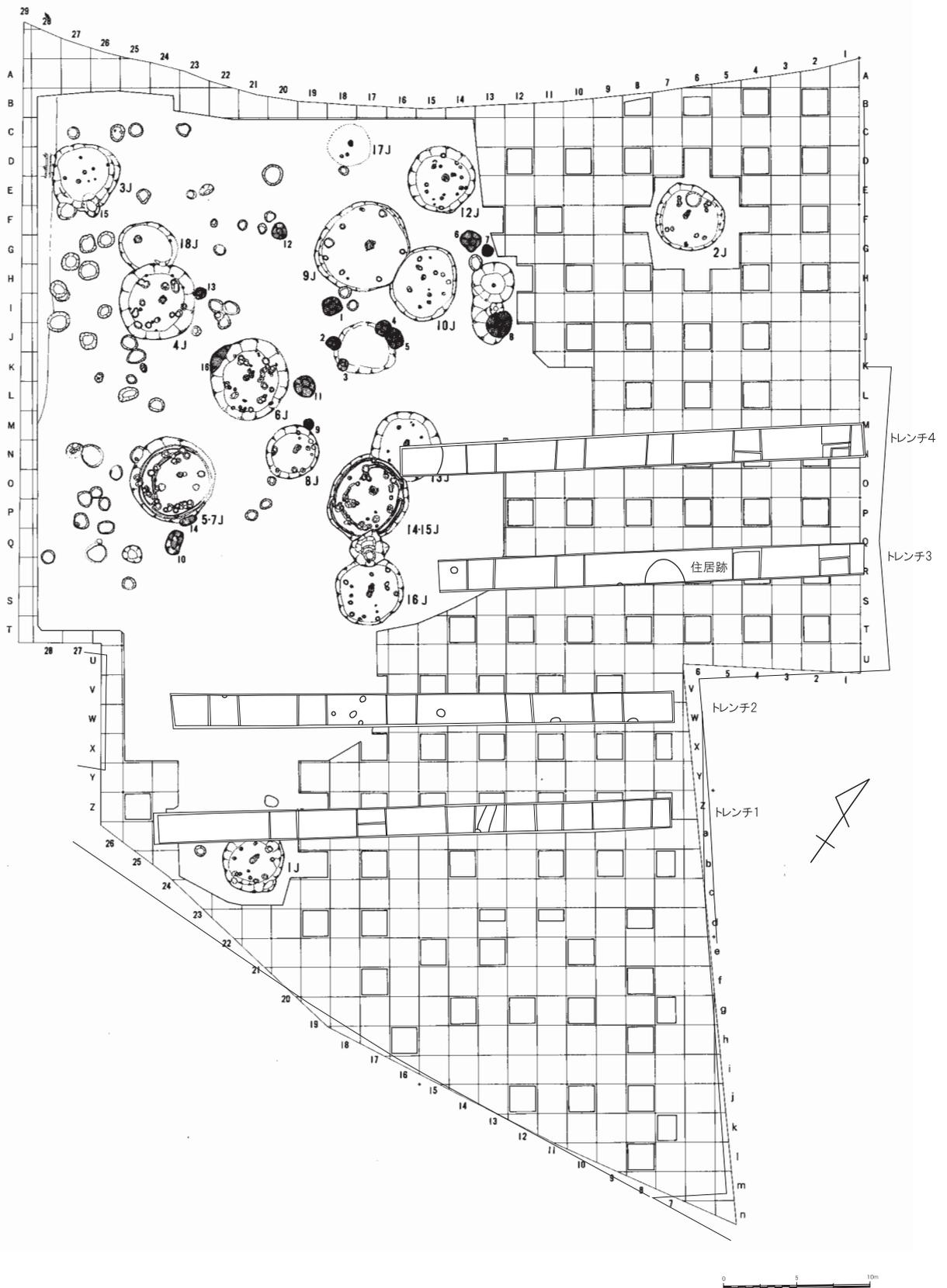
調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年（平成19年）1月25日付けで、「埋蔵文化財包蔵地の開発行為事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は1992年に「西遺跡第1次調査」として調査済みであるが、当時の開発は駐車場造成のため、遺構保存として試掘調査のみを行なった未調査区域があり、特に旧石器時代の遺構については未確認である。今回開発申請したマンション建設ではローム面の掘削も予定されているため、旧石器時代と未調査部分の確認を主眼に再調査することとなった。

試掘調査は2007年3月12日から同年4月20日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。前回調査した住居跡の他、新たな住居跡、集石を検出した。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2007年6月4日から8月1日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、縄文時代の遺構と遺物を調査した。



第3図 西遺跡の地形と調査区（1/4,000）



第4図 西遺跡第1地点遺構配置図 (1/400)

## 第3章 北野遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1 km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以来14ヶ所で試掘調査が行われ、時期不明の土坑を検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

### II 北野遺跡第1地点

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年3月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は小支谷に北面しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在

を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月7日に、2×2mのグリッドを11ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### III 北野遺跡第2地点

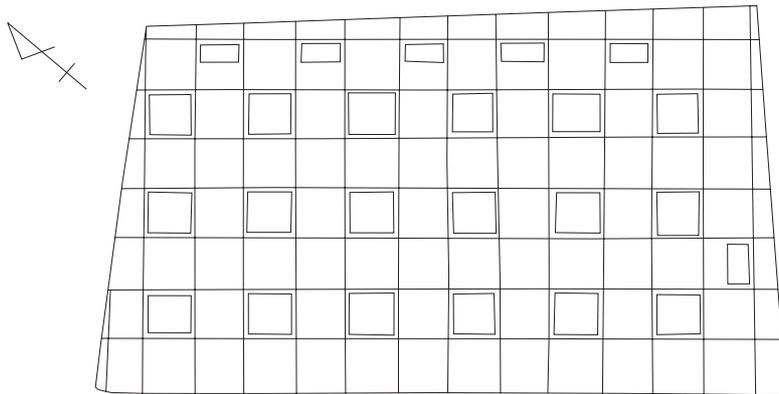
調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年7月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は藤間江川に面した斜面地に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年8月4日に2×2mのグリッドを5ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

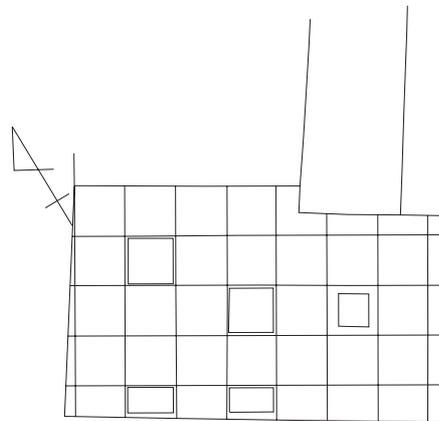


第5図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

北野遺跡第1地点



北野遺跡2地点



第6図 北野遺跡第1・2地点調査区域図 (1/300)

## 第4章 川崎遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。台地の幅は400~500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側基部に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917年（大正6年）台地の先端部で貝層が確認され1928年（昭和3年）の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来58ヶ所で調査が行われ、37ヶ所で遺構が確認されている。主たる時代と遺構は縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。



第7図 川崎遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第6表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎160	1974.3.25~4.4	84	1次調査に先立つ保存状況把握	炉穴3、土坑2、ピット群、縄文土器、石器	上福岡市遺跡調査報告書
1次	川崎162~176	1974.7.20~9.19	1,800 (予定 2,510)	5ヶ年計画による事前調査	住居跡11(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、掘2、土坑5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡第1次調査概報
緊急発掘調査 (新井氏宅)	大字川崎字宮後168-3	1975.3.30~5.10	198.53	個人住宅建設	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔	上福岡市遺跡調査報告書
宅地添1次 (A地区)	大字川崎字宅地添122	1975.6.8~29	50	個人住宅建設	縄文早期住居1、縄文土器、石器、礫	上福岡市遺跡調査報告書
2次	川崎137~174	1975.9.4~12.5	3055	5ヶ年計画による事前調査	縄文住居9、古墳住居6、奈良平安住居10、中世遺構他	川崎遺跡第2次調査概報
3次	川崎149-6	1977.11.1~12.3	300	住宅建設	縄文住居3(7,8)、奈良平安住居(1,2,4~6,9)、焼土散布、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次)・長官遺跡
宅地添2次 (B地区)	川崎198	1978.5.15~25	170	宅地造成	土坑3、ピット	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)
宅地添3次 (C地区)	川崎230	1978.5.23~31	130	宅地造成	井戸跡2、地下式坑1、溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅰ)
4次	川崎2-5-2	1979.4.19~5.11	304	宅地造成	縄文前期住居1、溝1黒浜式土器、貝類	埋蔵文化財の調査(Ⅱ) 埋蔵文化財の調査(Ⅳ)
5次	川崎1-1-4	1979.9.26~10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
1979年試 (清見)	清見4-3-11	1979.11.12~19	260	宅地造成	溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
6次	川崎102-5	1979.12.3~8	30	プレハブ家屋建設	縄文前期住居2、縄文土器片、平安住居2	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)
7次	川崎124-3	1981.11.27~30	316	個人住宅建設	遺構なし、平安土器片	埋蔵文化財の調査(Ⅳ)
8次	大字川崎字宮脇148-1	1984.1.17~26	400	住宅建設	溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅵ)
宅地添4次	川崎宅地添219	1984.9.25~10.9	301	住宅建設	縄文住居1、平安住居1	埋蔵文化財の調査(Ⅶ)
9次	川崎字宮後口172-1,2	1986.9.11~20	495	個人住宅建設	溝2、縄文後・晩期、平安土器散布	埋蔵文化財の調査(Ⅸ)
10次	川崎224-1	1987.11.24~30	603	個人住宅建設	溝1	埋蔵文化財の調査(Ⅹ)
11次	川崎2-6-2	1988.5.10~17	289	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(11)
1988年試 (市道402号線)	市道402号線	1988.9.19~21	60	下水道設置	住居1	埋蔵文化財の調査(11)
1989年試(1)	川崎字宅地添196-1	1989.4.10~18	1045	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(12)
1989年試(2)	川崎字宮前98-2	1989.10.3~6	264	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(12)
12次	川崎字宮前149-4,5	1990.4.20~27	311	住宅建設	溝2	埋蔵文化財の調査(13)
13次	大字川崎字宮前122	1990.5.1~17	480	住宅建設	奈良住居1	埋蔵文化財の調査(13)
1990年試(1)	大字川崎字宮前122	1990.5.18~23	530	範囲確認調査	なし	埋蔵文化財の調査(13)
14次	大字川崎字宮前145	1990.10.1~31	499	住宅建設	縄文前期住居1、貝塚、平安住居1	埋蔵文化財の調査(13)
15次	川崎字宮後口160-1	1991.10.23~11.20	499	個人住宅建設	平安住居7、土坑1	埋蔵文化財の調査(14)
1992年試(1)	大字川崎字山向9-5	1993.2.18~19	168	店舗併用住宅	なし	埋蔵文化財の調査(15)
1993年試(1)	川崎2-2-10,11	1993.8.24	131	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
1993年試(2)	川崎1-1-1の一部	1993.9.10~13	422.37	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
1994年試(1)	川崎字台258他1筆	1994.11.17~24	230	機材置場敷設	なし	埋蔵文化財の調査(17)
1995年試(1)	川崎2-7-2,3	1995.10.13~16	1126.34	消防署建設	なし	埋蔵文化財の調査(18)
16次	川崎字宮脇150-2,3	1995.12.11~1996.3.8	828	駐車場及び資材置場敷設	縄文前期(黒浜期)大形住居1、同期住居跡2・土坑2、平安住居跡4・掘立柱建物跡6、中世竪穴状遺構2	7年度教育要覧
17次	川崎字宅地添204の一部	1996.7.15~23	779.69	個人住宅建設	平安住居1	埋蔵文化財の調査(19)
18次	川崎字宮脇148-3	1996.11.18~25	198	個人住宅建設	平安住居1	埋蔵文化財の調査(19)
1997年試(1)	川崎字山向21	1997.4.14	367.21	宅地造成	溝1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(20)
1997年試(2)	川崎字宮後口165-6	1997.10.20	204.34	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(20)
1997年試(3)	川崎字宅地添199-1,2,5	1998.2.12~16	780.36	個人住宅建設	なし	9年度教育要覧
1998年試(1)	川崎字宅地添197-1	1998.10.27~11.6	996.09	宅地造成	縄文前期土坑11ほか	埋蔵文化財の調査(21)
市道402号線 2次	川崎字宮前、宮脇地内	2000.2.21~25	496		縄文前期住居跡1	11年度教育要覧
2000年試(1)	川崎大字宅地添209の一部	2000.6.19~22	123.3	個人住宅建設	貝塚の一部	埋蔵文化財の調査(23)
範囲確認調査	川崎字宅地添209	2001.6.12~25	100	車庫建設	溝1	埋蔵文化財の調査(24)
19次	川崎字宮脇157の一部	2001.9.18~10.4	289.2	個人住宅建設	平安初頭住居1	埋蔵文化財の調査(24)
2001年試(1)	川崎字宅地添204-1	2001.10.29,30	825.42	宅地造成	なし	埋蔵文化財の調査(24)
2002年試(1)	川崎249-1の一部	2002.5.13	341.32	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(25)
2002年試(2)	川崎210-1,2の一部	2002.10.28,29	551	共同住宅建設	溝1【盛土保存】	埋蔵文化財の調査(25)
2002年試(3)	川崎2-4-16	2002.12.24	228	個人住宅建設	なし	14年度教育要覧
2002年試(4)	川崎2-2-12	2003.3.13	165	個人住宅建設	なし	14年度教育要覧
2002年試(5)	川崎字宮脇155先	2003.3.26	164	市道401号線舗装工事	なし	14年度教育要覧
2003年試(1)	川崎137-1の一部	2003.8.6,7	257.5	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(26)
2003年試(2)	川崎字宅地添226-14	2003.12.8,19	381	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(26)
宅地添地区5次	川崎字宅地添222-3先	2004.2.16~18	88		古墳初頭竪穴住居跡1【調査実施】	15年度教育要覧
2004年試(1)	川崎字宮脇157-1の一部	2004.6.14,15	421	個人住宅建設	平安竪穴住居のカマドの一部	埋蔵文化財の調査(27)
2004年試(2)	川崎2-5-1	2004.11.1~4	881	宅地造成	なし	埋蔵文化財の調査(27)
20次	川崎字宮脇153-5	2005.11.28~ 12.2(11.22~27)	257	個人住宅建設	古墳住居1	市内遺跡群1
21次	川崎1-6-10	2006.4.14~ 20(2006.4.11)	298	個人住宅建設	奈良住居1、溝検出	市内遺跡群3
22次	川崎171-1,174-10	2007.4.16~23	104	消防分団倉庫	中世地下式坑1、近世地下室1	
23次						
24次	川崎字宅地添225番3	2007.10.4確認調査	319	確認調査	なし	

## II 川崎遺跡第21地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年3月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の西端に近い台地上に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年4月11日に2×2mのグリッドを14ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査を行っ

た。その結果、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで30cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2006年4月14日から同年4月20日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を人力で表土除去後調査を行なった。調査の結果、平安時代の住居跡1軒、溝跡1条を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第7表 川崎遺跡古代住居跡一覧

(単位cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模	炉 カマドK	設置壁	カマド規模cm		周溝	主軸方位	時期	備考	文献
								煙道	幅					
1	1974	第1次 LN72	完掘	隅丸方形	760×730×40	炉	地床炉	60×50cm		○	N-60-E	3世紀終末	市指定文化財	川崎遺跡第1次概報
2	〃	第1次 LN05	完掘	方形	390×320×	K				○	N-5-E	国分		〃
3	〃	第1次 LN06	完掘	歪んだ方形	320×320×	K	東				N-13-W	9C 4半期		〃
4	〃	第1次 LN07	完掘	方形	320×320×	K	東	80	90	○	N-83-W	9C 中葉		〃
5	〃	第1次 LN24	完掘	長方形	470×340×50	K	北	120	75	○	N-5-E	10C 1半期		〃
6	〃	第1次 LN25	完掘	方形	320×300×	K	北	40	40		N-42-E	9C 1半期		〃
7	〃	第1次 LN28	西側未掘	(長方形)	×300	K	東	50	60	○	N-69-W	9C 3半期		〃
8	〃	第1次 LN71	東側7割未掘	(方形)	×600									〃
9	1975	第2次 LN75	部分	(長方形)										川崎遺跡第2次概報
10	〃	第2次 LN92	部分	(長方形)								10C 1半期		〃
11	〃	第2次 LN72	完掘	隅丸方形	250×250×13	K	南	50	80		N-18-E	国分		〃
12	〃	第2次 LN07	完掘	方形	720×720	K	北			○	N-32-E	6C 後半	ピット多数 土すい	〃
13	〃	第2次 LN04	完掘	方形	390×350	K	東	60	70	○	N-64-E	6C 前半	貯蔵穴有り	〃
14	〃	第2次 LN05	完掘	長方形	450×370	K	北	100	80	○	N-1-E	10C 2半期		〃
15	〃	第2次 LN19	14住に切られる			K	東					9C 4半期	支脚がたつたまま	〃
16	〃	第2次 LN14	完掘	長方形	370×260	K	北	90	80	○	N-4-E	9C 3半期		〃
17	〃	第2次 LN12	南側未掘	長方形	700×							6C	紡錘車	〃
18	〃	第2次 LN33	跡と柱(観音石)											〃
19	〃	第2次 LN06	完掘	隅丸方形	410×420	K	北東			○	N-45-E	6C 後半	良好	〃
20	〃	第2次 LN22	完掘	長方形	410×330	K	北	120	120	○	N-29-W			〃
21	〃	第2次 LN53	完掘	長方形	350×280	K	東	70	60	○	N-87-E	10C 2半期	22住を切る	〃
22	〃	第2次 LN54	部分	方形	330×320	炉	地床炉					五領		〃
23	〃	第2次 LN20	3/5	(長方形)	×350	K	北			○	N-23-E	9C 2半期	鍛冶工房跡	〃
24	〃	第2次 LN21	ほぼ完掘	正方形	580	K	北西	50	70	○	N-43-W	鬼高		〃
25	1977	第3次1号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	跡で残ったもの		○				川崎遺跡第3次
26	〃	第3次2号住居	完掘	長方形	350×330	K	北		70	○		国分	鉄製品多い	〃
27	〃	第3次4号住居	(完掘)	長方形	350×400	K	東	170	110	○		国分		〃と埋文調査19
28	〃	第3次5号住居	(完掘)	長方形	350×320	K	東	120	90	○		国分		〃と埋文調査19
29	〃	第3次6号住居	4/5	正方形	440×	K	北	155	90	○		9C 4半期	焼失家屋	〃
30	〃	第3次9号住居	1/2	(方形)	415×					○		国分		〃
31	1979	第6次1B住居			340×					○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査II
32	〃	第6次2号住居	1/3		340×	K	北→東	140	80	○		9C 1半期	鉄製品多い	〃
33	1984	宅地添第4次3住	完掘	正方形	340×340	K	東	290	200	○		8C 3半期		埋蔵文化財の調査VII
34	1990	第13次1号住居	1/2~1/3		390×	K				○		7C 後半		埋蔵文化財の調査13
35	〃	第14次2号住居	南1/2		340×	K	東			○		9C 1半期		〃
36	1991	第15次1号住居			395×285	K	北東					9C~10C		埋蔵文化財の調査14
37	〃	第15次2号住居		正方形	380×380	K	東					9C 中葉		〃
38	〃	第15次3号住居	完掘	長方形	265×430	K	南東			○		9C 初葉		〃
39	〃	第15次4号住居	1/2	正方形	580×	K	東			○		8C 末~9C 初葉		〃
40	〃	第15次5号住居	3/4		280×	K	北			○		9C 前半~中		〃
41	〃	第15次6号住居		正方形	425×270	K	北			○		8C 後半	35,36住と重複	〃
42	〃	第15次7号住居	1/2	正方形	570×	K	北			○		9C 前半	緑釉陶器	焼失家屋
43	1994	第16次1号住居	1/2		450×					○		9C 前半~後半		未報告
44	〃	第16次2号住居	北西隅のみ									9C 前半~後半		〃
45	〃	第16次5号住居	2/3		440×	K	東			○		9C 前半~後半		〃
46	〃	第16次6号住居	カマドのみ			K	東							〃
〃	〃	第16次1号掘立	2/3	長方形										〃
〃	〃	第16次2号掘立	西側柱のみ	長方形	南北2間							9C 前半~後半	42住と隣接	〃
〃	〃	第16次3号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間									〃
〃	〃	第16次4号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間									〃
〃	〃	第16次5号掘立	1/2	長方形	南北2間									〃
〃	〃	第16次6号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間									〃
47	1996	第17次1号住居	完掘	長方形	400×400	K	東			○		国分	墨書土器	埋蔵文化財の調査19
48	〃	第18次2号住居	完掘	長方形	300×300	K	東			○		国分		埋蔵文化財の調査19
49	2001	第19次1号住居	1/2		360×	K						9C 前半		埋蔵文化財の調査24
50	2005	第20次1号住居	完掘	長方形	320×350	K	北西			○	N-45-W	7C 前半~中		市内遺跡群1
51	2006	第21次1号住居	完掘	方形	410×365×10	K	東	145	125	○	N-106-E	9C 後半		市内遺跡群3

## (2) 遺構と遺物

## ①H51号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。遺跡全体の分布では南端に位置する。

【形状】主軸方位はN-106°-E、東側に竈を備える。平面形態は方形で竈の北側に張り出し部がある。規模は主軸方位の張り出し部まで含めて東西4.10m、南北3.65m、確認面からの深さ0.10mで、耕作による削平が深い。竈左側の張り出しが本来の規模で、竈右側は棚状施設の可能性もある。

【竈】住居の東側に付く。竈右側が棚状施設の場合、竈の裾部は構築当初からロームを残し、粘土を貼り付けている。粘土の裾部を含めた竈の規模は幅1.25m、奥行き1.45m、残高0.38mである。竈内部の幅は0.56m、掘り込みは床面から0.21mを測る。

【土坑】竈右側に幅0.70×奥行き0.56×深さ0.24mの円形土坑が有り、貯蔵穴と思われる。

【周溝】竈の周囲を除いて巡る。住居北西隅の周溝が切れているが、後世の削平の可能性がある。周溝幅20～40cm、深さ10cm前後である。

【床】竈前面の床は2.1×1.7mの範囲で硬化している。壁際から幅1m程の床面下は、深さ0.06m程荒掘りされた上でローム混じりの黒色土を貼り、床面としている。竈左側の荒掘りは、手前の荒掘りと連続しておら

ず、周溝も一旦途切れた上内側へ向かっている事から、張り出し部分は後に拡張したと思われる。

ピットは床面に2ヶ所、周溝内に1ヶ所検出した。

## ②溝

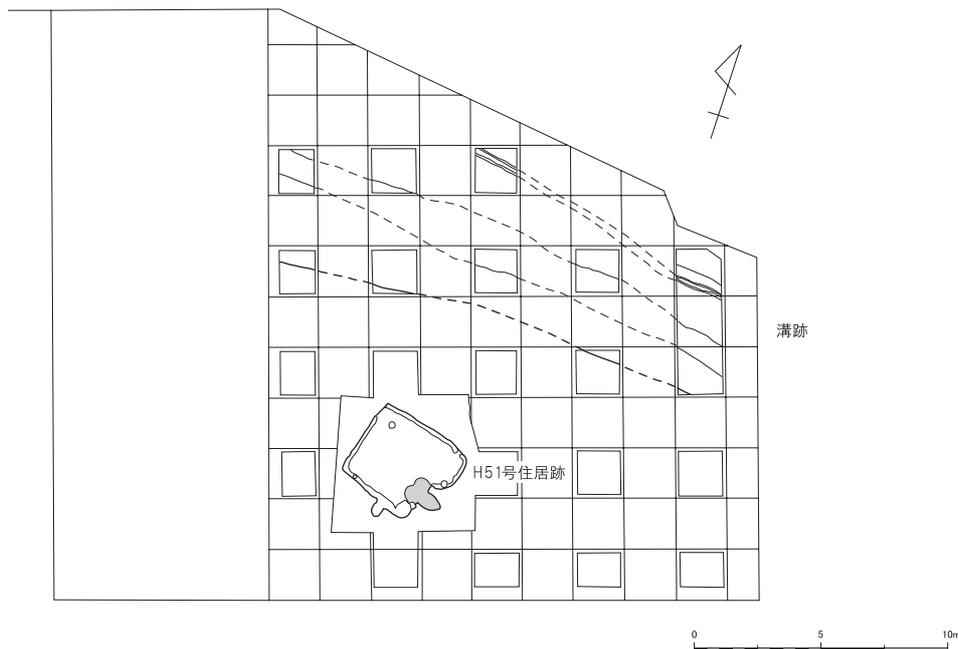
調査区北側の土地境界に沿って溝を検出した。断面形態は「V」字形を呈するが、北側の土地は段切りされて一段低くなっており、溝の立ち上がりもその分低くなっている。検出した溝の長さは19.3m、上端幅は5.4m以上、下端幅は0.3m、確認面からの深さ1.39mである。遺物は検出しなかった。

## ③H51号住居出土土器（第9図1～10）

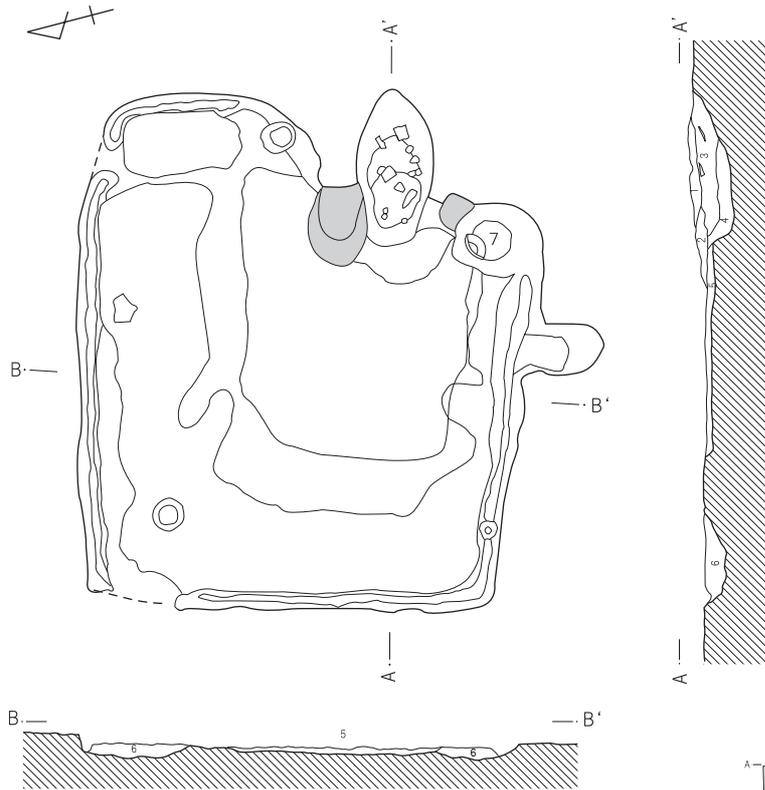
1～6は平安時代の住居に混入した縄文土器片で、胎土に植物繊維を含み、1～4は貝殻条痕をもつ。1の口唇の内側に削りがある。1は子母口式の可能性が高いが、2～5は早期後半のもの。6は条間の広い斜縄文の小片で中期のもの。

7と8は須恵器坏、糸切り離しの底から立ち上がる身部の口縁端が外反し、7は口径11.9cm・底径5.8cmで9世紀後半のものといえる。9は土師器の甕で頸部が明瞭。10は完形の土錘で中膨れの器形である。21地点H51号住居の時期は7と9から9世紀後半の可能性が高い。

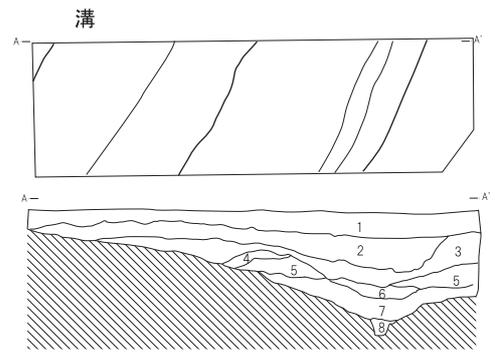
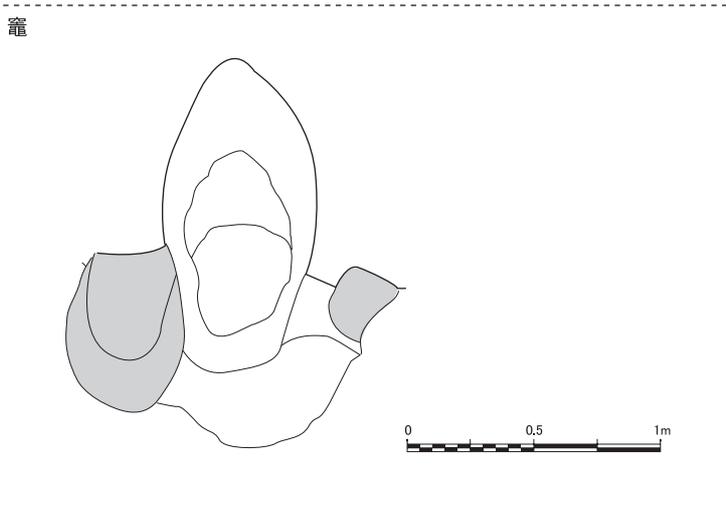
11～13は遺構外出土。11は植物繊維を混入する縄文前期前半のもの。12は須恵器底部片。13は煙管吸口。



第8図 川崎遺跡第21地点遺構配置図（1/300）

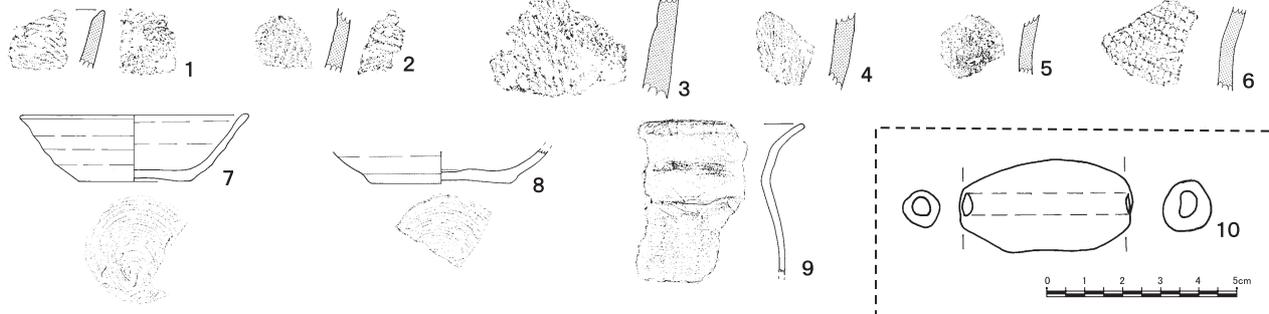


- H51号住居跡
1. 粘土と黒色土の混合土。焼土粒子を多量に含む。
  2. 粘土
  3. 焼土粒子と粘土の混合土
  4. 加熱を受けた焼土ブロック層
  5. 硬化面
  6. ローム塊と黒色土の混同土



- 溝
1. 表土
  2. 黒褐色土
  3. 黒褐色土
  4. 黄褐色土
  5. 暗褐色土
  6. 黄褐色土
  7. 暗褐色土
  8. ロームブロック層
- ローム粒子を多量に含む  
ローム粒子を含む  
ロームブロックを含む  
ロームブロックを含む  
ガサガサのロームブロックを含む  
ロームブロックを含む、粗質

H51号住居跡



遺構外



第9図 川崎遺跡 H51号住居跡 (1/60) 竈 (1/30) 溝 (1/100) 出土遺物 (1/4・1/2)

## 第5章 ハケ遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側は新河岸川が台地縁をなめるように流れ、急峻な崖が形成されている。遺跡の北は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が北から入る。標高は14~16mを測る。遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳~奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

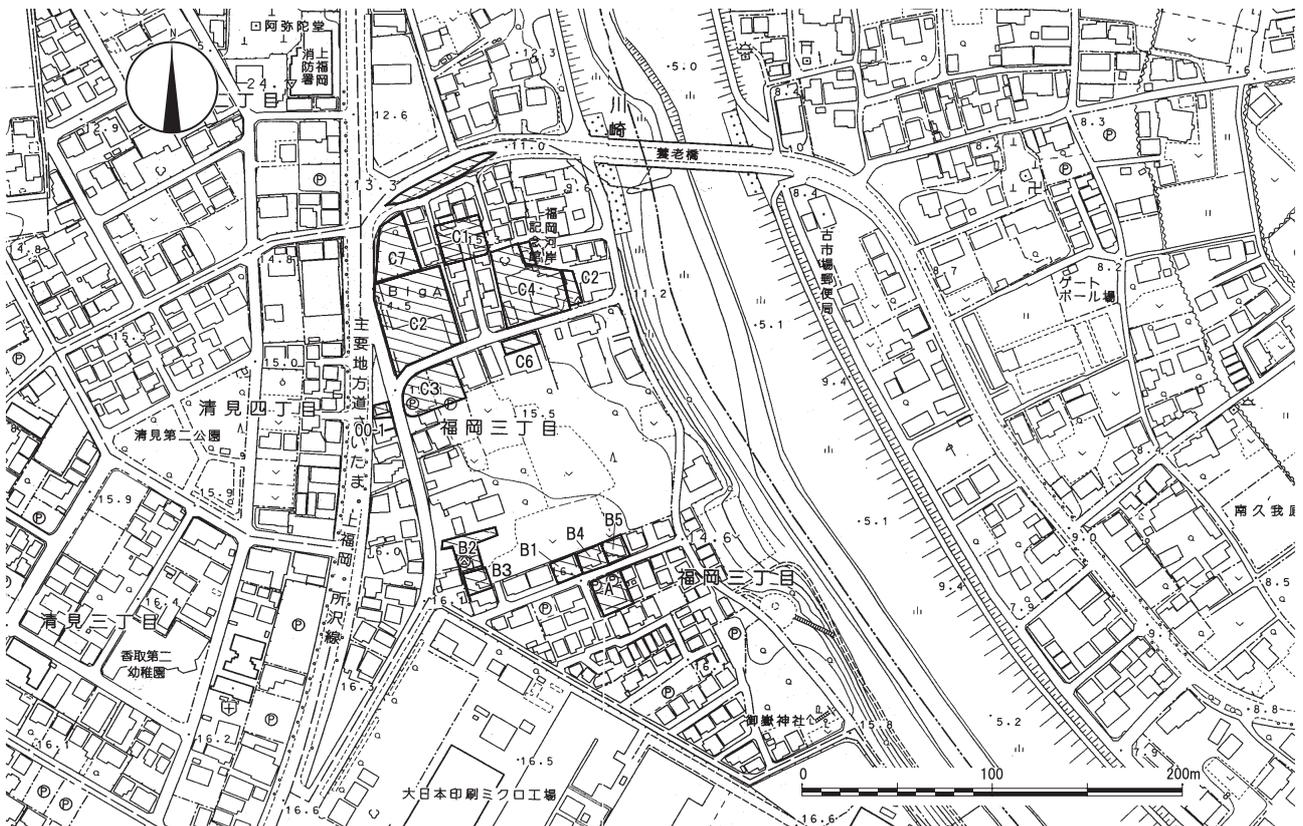
1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、以来14ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）である。なお、本遺跡は便宜上東西に走る道路によって3区分され、南側からA区、B区、C区と呼称されている。

### II ハケ遺跡C区7次調査

#### (1) 調査の概要

調査は再開発に伴うもので、原因者より2006年6月7日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端の台地上に立地し、南側と東側の隣接地で住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年7月11日から同年7月14日まで行った。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、住居跡らしき遺構覆土を検出したので、さらに遺構の深さや時期などを確認するため、一部掘り下げたところ、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒、溝等を確認した。立木のため試掘できなかった未確認区域がある。特に南側には住居跡等の更なる存在が予測される。30~45cm厚の盛土があり、確認面まで75cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。



第10図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 ハケ遺跡調査一覧

地区 地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅建設	古墳住居1、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中福岡字清見1480番地	1977.8.2～27	1794	宅地造成	縄文住居5、奈良平安住居2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡C地区
B-1次	中福岡1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅建設	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(I)
B-2次	中福岡1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(I)
B-3次	中福岡1228-37	1979.7.20～31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(II)
B-5次	大字中福岡字遠見1228-46	1982.5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(V)
C-2次	福岡3-2068の1,2	1987.4.16～5.29	1900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11他、奈良平安住居4、堀建1	埋蔵文化財の調査(X)
C-3次	福岡2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場設置	縄文中期住居跡4、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(11)
C-試	福岡3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3	2年度教育要覧 市史資料編
C-6次	福岡3-1189,2056-2	1993.5.6～18	141.91	個人住宅建設	縄文中期土坑6	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河原町線管理棟建設工事	縄文中期住居跡5、土坑30	埋蔵文化財の調査(17)
C-試	福岡3-1184-8	2000.1.26	100	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(22)
C-7次	福岡3-2	2006.7.10～22	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡群3

第9表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表

(単位cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋蔵	周溝	主軸 方位	時期	備考	文献
						地床	炉体	石囲						
1	1977	C地区1号住	1/4	(円形)	600×			○				加曾利E II		ハケ遺跡C地区
2	〃	C地区4号住	完掘	楕円形	(600)	○						加曾利E I		〃
3	〃	C地区5号住	完掘	(方形)	400×500	○						諸磯		〃
4	〃	C地区6号住	(完掘)			○						加曾利E III	7住と重複	〃
5	〃	C地区7号住					○	○				加曾利E I		〃
6	1987	C地区2次1号住	1/3						○			加曾利E I		埋蔵文化財の調査X
7	〃	C地区2次2号住	西1/2	隅丸台形				○		○		加曾利E I	連弧文土器出土	〃
8	〃	C地区2次3号住	完掘	楕円形	720×600			(○)		○		加曾利E II	連弧文、曽利系多い	〃
9	〃	C地区2次4号住	北1/2					○				加曾利E II		〃
10	〃	C地区2次5号住	ほぼ完掘	円形	620	○						加曾利E II		〃
11	〃	C地区2次7号住	完掘	円形	700			○				加曾利E II		〃
12	〃	C地区2次8号住	完掘	円形						○		加曾利E I	2軒の住居の重複	〃
13	〃	C地区2次9号住	完掘	方形	720×	○			○	○		加曾利E II	10住と重複	〃
14	〃	C地区2次11号住	完掘	円形	450×400	○						加曾利E II		〃
15	〃	C地区2次14号住	完掘	円形	660×640		○		○	○		加曾利E II	3度建替え	〃
16	〃	C地区2次16号住	完掘	隅丸台形	670×650	○			○	○		加曾利E II		〃
17	1988	C地区3次18号住	完掘	円形	650					○2		加曾利E II	17住と重複	〃
18	〃	C地区3次19号住	西2/3	円形	800と500			○		○		加曾利E II	2軒の住居の重複	〃
19	〃	C地区3次21号住	完掘	円形	460～480					○		加曾利E I	滑石製垂飾品	〃
20	〃	C地区3次22号住	西4/5	不整形円形	700							加曾利E II		〃
21	1990	C地区4次23号住	1/4	(方形)									安行1	床面から土偶 市史資料編
22	〃	C地区4次24号住	西側未調査	楕円形										〃
23	〃	C地区4次25号住	南東隅1/4	(円形)	500							加曾利E II		〃
24	〃	C地区4次26号住	北東隅1/4	(楕円形)	600							加曾利E III古		〃
25	〃	C地区4次28号住										加曾利E III		〃
26	〃	C地区4次29号住										加曾利E III古		〃
27	〃	C地区4次30号住												〃
28	〃	C地区4次31号住												〃
29	〃	C地区4次34号住	一部	楕円形	560					○		加曾利E I		〃
30	〃	C地区4次35号住	一部	(円形)	(8m×7m)	○						加曾利E III		〃

第10表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

(単位cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模	カマド		周溝	主軸 方位	時期	備考	文献
						カマド	K設置壁					
1	1976	A地区LN01	1/2	隅丸方形	440×	K	北	○		鬼高		上福岡市遺跡調査報告書
2	〃	C地区3号住	完掘	長方形	470×480	K	北	○		8C 3四半期		〃
3	〃	C地区8号住	完掘	長方形	560×388×44	K	北	○		8C 4四半期		〃
4	〃	C地区2次6号住	完掘	方形	300×280	K	北			国分		〃
5	〃	C地区2次10号住	完掘	長方形	450×300	K	北	○		8C末		〃
6	〃	C地区2次12号住	完掘	長方形	400×340	K	南東	○		9C後半		〃
7	〃	C地区2次15号住	南東1/4					○		9C後半		〃
8	〃	〃2次掘立柱建物		桁行4間×梁間2間	870×470				東面に庇	8C中葉		〃
9	1988	C地区3次17号住	完掘	長方形	350×290	K	北東	○		10C初頭		埋蔵文化財の調査11と市史資料編
10	〃	C地区3次20号住	南東1/6							8C 3四半期		〃
11	1990	C地区4次27号住	完掘	方形	400×380		北東	○		10C初頭		〃
12	〃	C地区4次32号住								10C初頭		〃
13	〃	C地区4次33号住	ほぼ完掘	方形	320×340			○		8C 3四半期	カタイ金具出土	〃

**(2) 遺構と遺物**

検出した住居は仮番号を付し報告する。

**【C区7次1号住居跡】**

1トレンチで確認した。北側に竈がある。南北方向に約3.5m検出。

**【C区7次2号住居跡】**

2トレンチで確認した。東側に竈がある。南北方向に約3m検出。

**【C区7次3号住居跡】**

4トレンチで住居跡北東部の隅を確認した。

**【C区7次4号住居跡】**

4トレンチで円形住居跡の隅を確認した。縄文時代

**【C区7次5号住居跡】**

3トレンチで円形住居跡の一部を確認した。縄文時代

**【C区7次6号住居跡】**

4トレンチで確認した。北側に竈がある。

**【溝】**

溝1と溝2は調査区南側に東西方向に平行して検出。溝3は2トレンチで南西方向に検出。溝4は3トレンチで南北方向に検出した。

そのほか4トレンチで土坑を4基検出した。

**【C区7次1号住居跡】**

1号住から須恵器大甕の胴下部片と土師器胴部細片が出土したが割愛した。甕の胎土には白色針状物質を含む。古代の住居であるが細分は困難。

**【C区7次2号住居出土土器】**

1は須恵器坏の口縁部細片で復原口径12cm、焼成はやや甘い器形と口縁の特徴から9世紀のもの。

**【C区7次3号住居出土土器】**

1は隆帯裾部に幅広押引文（キャタピラ文）を入れ地文縄文の区画線には山形沈線を入れる。勝坂Ⅱ式。2は地文条線の胴片。3は無文浅鉢片だが一部に側面調整のある土製円板。2と3は縄文中期後半。4は土師器甕の口縁部細片で平安時代のもの。1～3は覆土流入品である。

**【C区7次4号住居出土土器】**

1は押引で沈線列をつくるが胎土に雲母を多く含む阿玉台Ⅰ式。2は幅広押引文と三角押文のセット。勝坂Ⅱ式。3は波状口縁深鉢で、地文縄文であり、沈線により花卉状区画文を磨消す。加曾利EⅣ式である。

**【C区7次5号住居出土土器】**

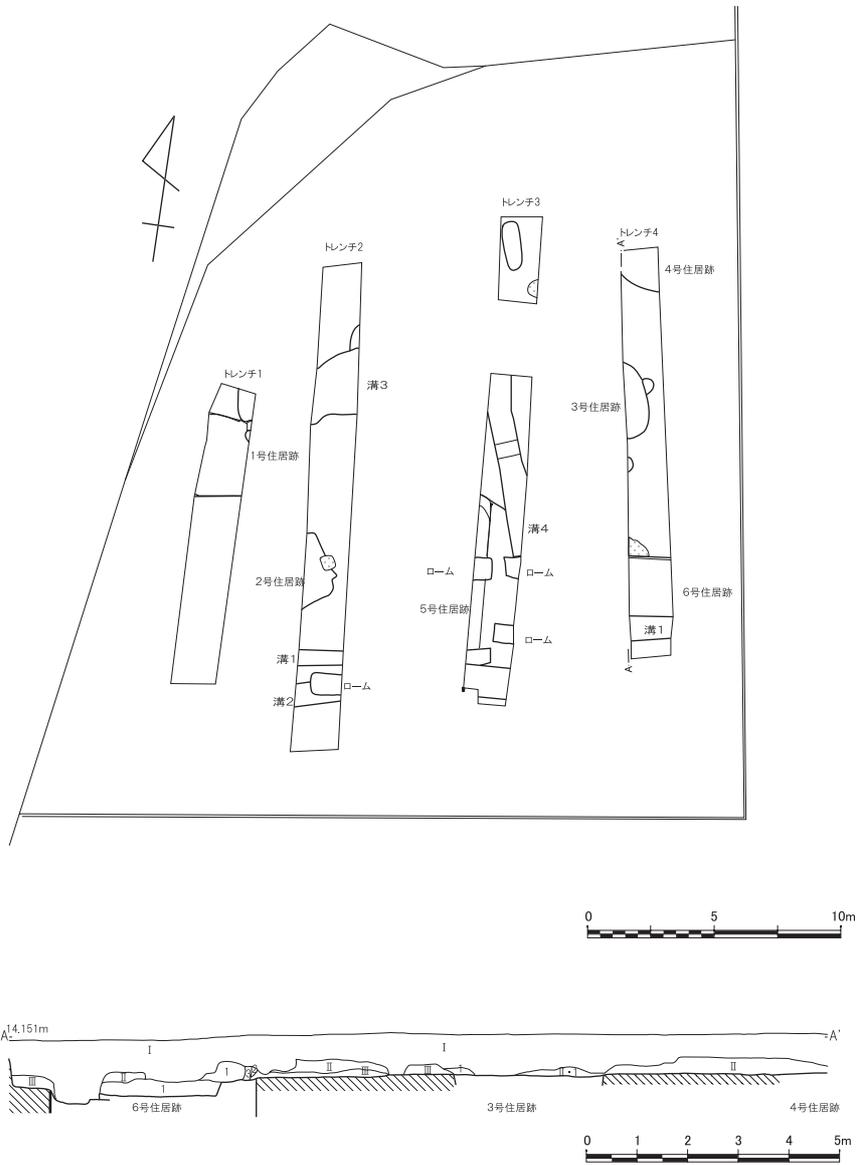
1と2は胎土に金雲母を含みヒダ状指頭圧痕をもち、2はゆるい波状文をもつ。1は阿玉台Ⅰb式新、2は阿玉台Ⅱ式、3は複列の押引文をもつ勝坂Ⅰ式。4～7はキャタピラ文又は三角押文をもつ勝坂Ⅱ式。8は全面縄文、9は条間の広い縄文の胴部片。10は地文撚糸の区画文口縁部。11は文様帯部分。12は頸部無文帯部分。13と14は貼付隆帯で垂下文をもつ。10～14は加曾利EⅠ新式。15と16は地文縄文で沈線による懸垂文をもつ加曾利EⅠ新式新相。17～20は地文縄文で21は弧状磨消をもつ。22と23は地文条線で23は連弧文。17～23は加曾利EⅡ式とEⅢ式。26は表に条線、口縁裏に複式の沈線のある加曾利B式。住居の時期は不明。

**【C区7次6号住居出土土器】**

1は地文縄文の上に半裁竹管文を施した諸磯式。2は押引文を多用し胎土に金雲母を含む。3は地文縄文で太い隆帯上に円形刺突文を密に施文するが時期不明。4は地文縄文に幅広磨消文をもつ。5は4と同巧の底部。6は須恵器坏で淡灰色を呈し、復原口径12cm。口唇直下の内外にゆるい段がある。9世紀代のもの。

**【C区7次遺構外出土遺物】**

1は胎土に繊維を含む沈線文土器で早期中葉。2は羽状縄文で胎土に繊維を含む前期前半。3は地文条線で斜位の刻みを加えた隆帯をもつ諸磯b式。4は地文条線で刺突浮線をもつ諸磯c式。5は口縁下に押引文列をもつ勝坂Ⅰ式。6は連続矢状押文列をもち、7と8は胎土に金雲母を含み押引波状文を入れる阿玉台Ⅱ式。9～12は幅広押引文と三角押文をセットとする勝坂Ⅱ式。10は区画隆帯の裾と区画内にかかる押引文を多用する。13は全面縄文、14は波状口縁深鉢で円形刺突文をめぐらす。15は突引文・沈線文をもつ勝坂Ⅲ併行期のもの。16は沈線を地文とし、半載竹管による隆帯で区画した口縁部片で、加曾利EⅠ新式。17は地文縄文で沈線の懸垂文をもつ。18は頸部無文帯をもち沈線の懸垂文をもつ加曾利EⅠ新式新相のもの。19と20は地文縄文で弧状磨消をもつ加曾利EⅢ式のもの。縄文時代の数時期の細片を割愛した。21はホルンフェルス製の打製石斧、22は頁岩製の打製石斧で刃部を欠く。



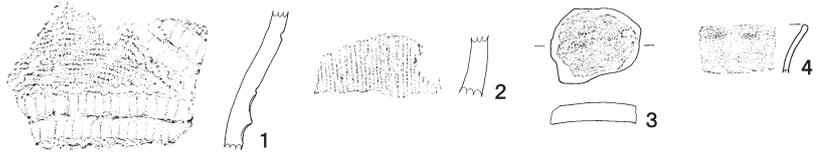
- 1トレンチ
- I. 黒褐色土 粘り有、締り弱、表土耕作土、コンクリート等の基礎跡はこの層中に有。
  - II. 黒色土 粘り有、締りやや弱、黒色土ベースに10cm以下シミ状黒褐色土をまだら状に含む。遺構はこの層の下に有。溝はこの層を切る。
  - III. 黒褐色土 粘り有、締り強、シミ状に3cm以下ローム少し含むが、ほぼ地山ソフトローム。遺構確認面。
1. 黒褐色土 粘り有、締り強、1cm以下ローム及び焼土粒多量に含む。東側で2cm以下シルト塊少量。
  2. 黒褐色土 粘り有、締り強、1層にほぼ同じだがやや色調明るく、シミ状にシルト少量。
  3. オリーブ褐色土 シルト質の粘土(オマドソデカ?)
  4. 黒褐色土 粘り有、締り強、2mm以下ローム、焼土粒多量。

第11図 ハケ遺跡 C 区 7 次調査区域図 ( 1 / 300 ) 土層図 ( 1 / 150 )

2号住居跡



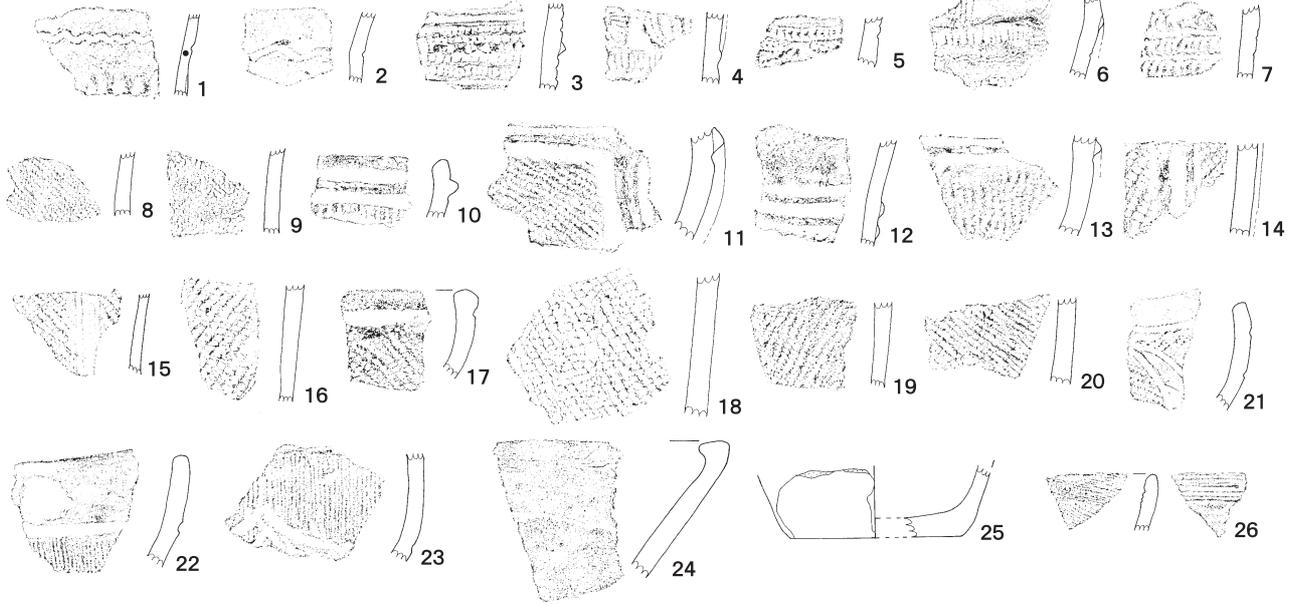
3号住居跡



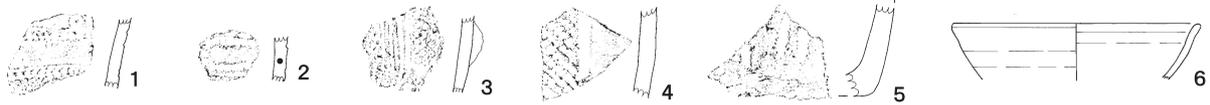
4号住居跡



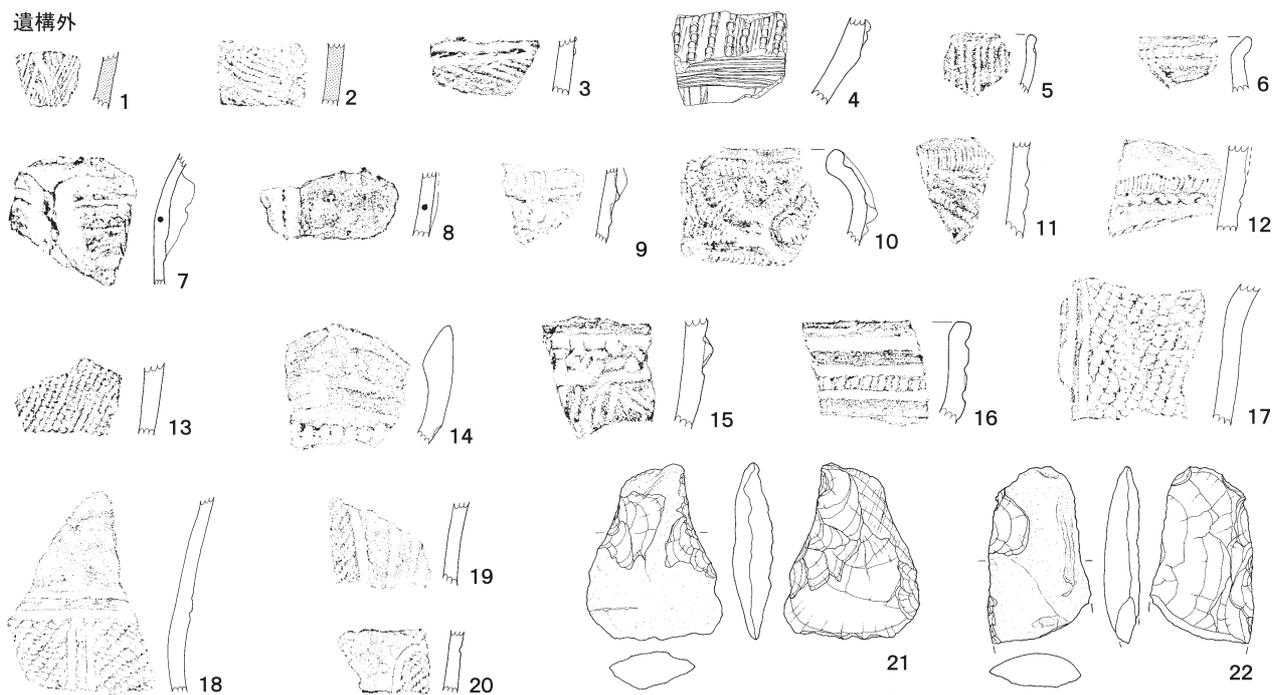
5号住居跡



6号住居跡



遺構外



第12図 ハケ遺跡C区7次2～6号住居跡・遺構外出土遺物(1/4)

## 第6章 滝遺跡の調査

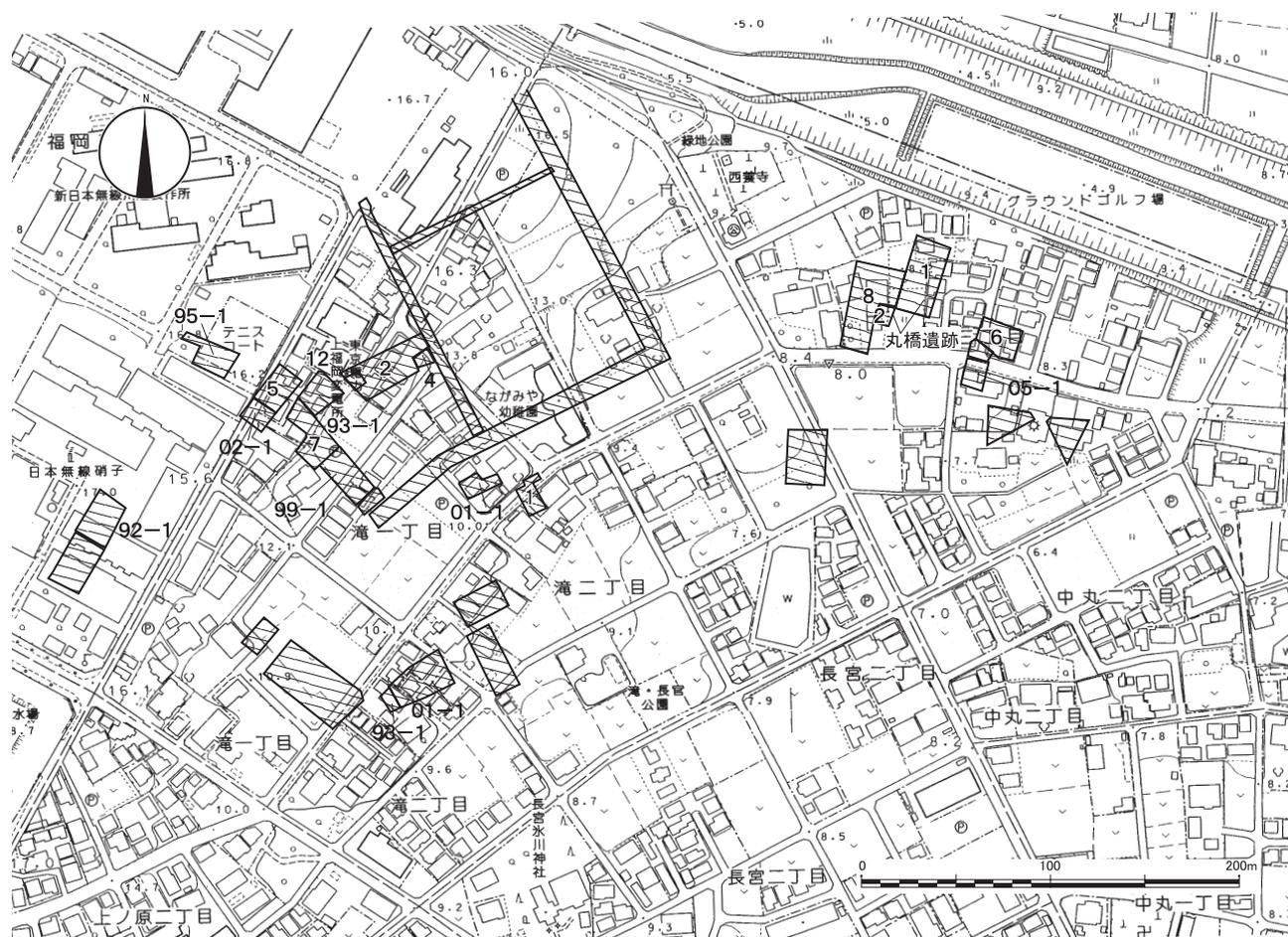
### I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚遺

跡と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来19ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世段状遺構である。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7地点とする。



第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 滝遺跡第12地点

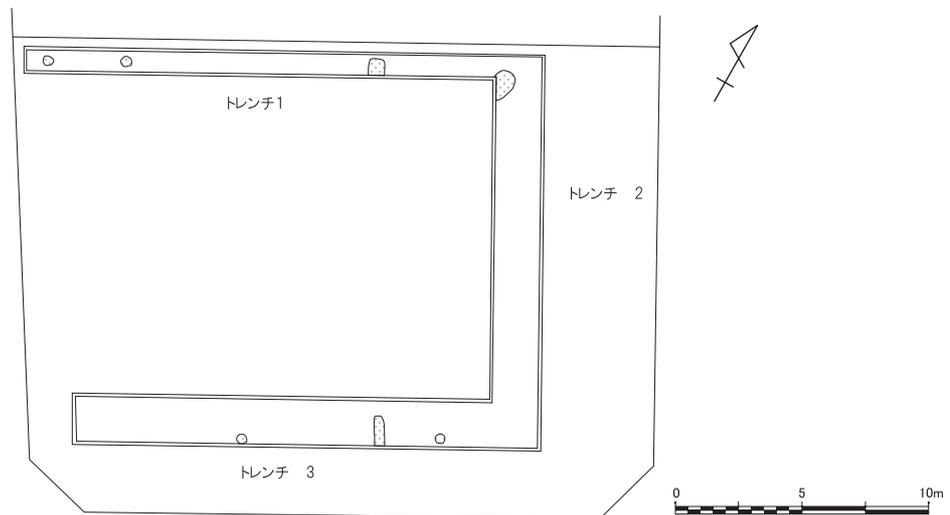
(1) 調査の概要

調査は再開発に伴うもので、原因者より2007年1月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端の台地上に立地し、南側と東側の隣接地で住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年2月6日に行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヶ所検出したが、確認したところ自然の窪みであった。確認面まで45cmを測る。なお。旧石器時代の確認調査はしていない。遺構・遺物の検出がなかったため写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

第11表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書	備考
1次	滝2-6-11	1978.10.2~13	129		住居跡1、土師器	埋蔵文化財の調査(1)	
2次	滝1-4-2	1979.4.15~5.7	278	幼稚園のプール建設	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器	埋蔵文化財の調査(II)	
3次	滝1-4-15	1980.6.27~7.3	76		権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
4次	滝1-4-15	1980.7.7~12	105		遺構なし、平安土師器片	埋蔵文化財の調査(III)	
5次	滝1-3-21	1980.7.20~31	330		権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(III)	権現山遺跡へ変更
6次	滝3-3-6	1980.11.20~12.2	166		縄文土趾、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他	埋蔵文化財の調査(III)	
7次	滝1-1-19	1981.7.30~31	400	個人住宅建設	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(IV)	
8次	滝3丁目3-15他	1983.11.14~26	990	住宅建設	古墳住居2	埋蔵文化財の調査(VI)	
9次	滝1-4-4	1984.5.11~22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(IV)	権現山遺跡へ変更
10次	滝1-3-17	1984.6.1~12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(IV)	権現山遺跡へ変更
11次	滝1-4-2	1984.6.28~30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(IV)	
12次	滝1-4-2	1984.12.22~24	94	住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(IV)	
1992年度 試掘(1)	滝1-2-14の一部	1992.7.6~8	400	倉庫建設	なし	埋蔵文化財の調査(15)	
1993年度 試掘(1)	滝1-1-4	1993.4.23~28	313.08	共同住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
1993年度 試掘(2)	滝2-2-7	1993.8.25	99	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)	
1995年度 試掘(1)	滝1-3-13	1995.11.27~30	462	共同住宅建設	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(18)	
1999年度 試掘(1)	滝1-1-6	1999.10.21~26	511.09	宅地造成(土地分譲)	なし	埋蔵文化財の調査(22)	
2000年度 試掘(1)	滝2-5-20	2001.1.23~24	154.7	個人住宅建設	なし	埋蔵文化財の調査(23)	
2001年度 試掘(1)	滝2-2-8	2001.4.17~20	519.64	共同住宅建設	奈良初頭住居跡1	埋蔵文化財の調査(24)	
2002年度 試掘(1)	滝1-3-49	2002.5.29~30	165	個人住宅建設	権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。	埋蔵文化財の調査(25)	
2005年度 試掘(1)	滝3-3-5,3-143	2005.6.24~27	350	個人住宅建設	なし		市内遺跡群1
現地立会	滝1-4-1,26,27	2006.4.15	2492	幼稚園	なし		
12	滝2-5-3の一部、5、4の一部	2007.2.6	472	個人住宅建設	なし		市内遺跡群3
13	滝2丁目2-6	2007.10.24~11.1		共同住宅建設			
14	滝2丁目5番11,17	2007.11.8~19	692	専用住宅4棟建設			



第14図 滝遺跡第12地点調査区域図 (1/300)

## 第7章 長宮遺跡の調査

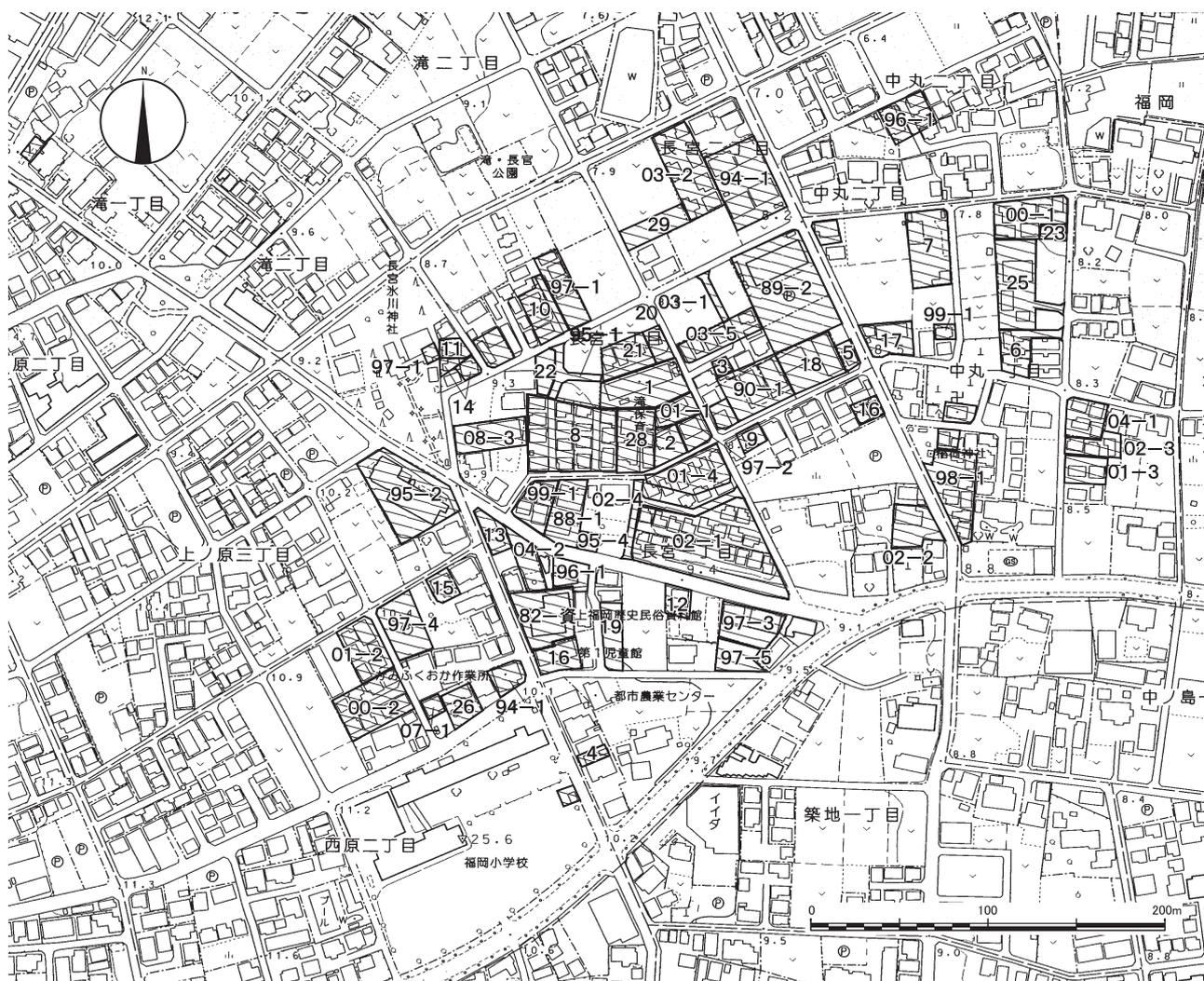
### I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側に滝遺跡、南側に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

遺跡の西には長宮氷川神社があり、この神社の縁起

伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早前期、古墳時代前後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には、飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が接する。

1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより52ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。



第15図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 長宮遺跡第25地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月24日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北東に立地し、西側の隣接地で縄文時代の遺物を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

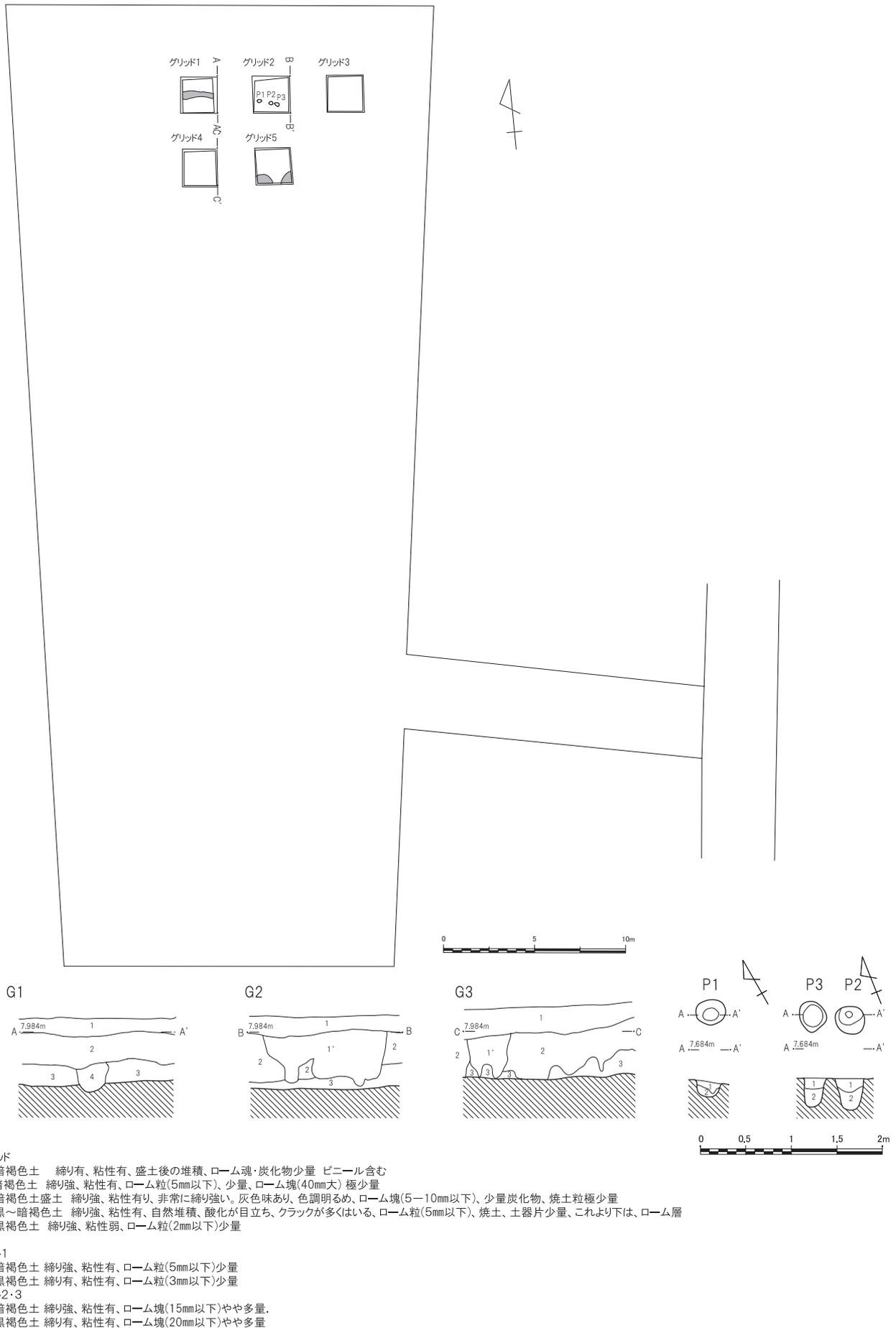
試掘調査は2007年2月15日から同16日に行った。2×2mのグリッドを5ヵ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、暗褐色土プランを数ヵ所検出したためさらに掘り下げたところ、時期不明のピットであった。確認面まで70～80cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第12表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮2-1-23	1977.10.3 ～30	1000	保育園 建設	溝3、土坑48、柱穴	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
2次	長宮2-1-27	1978.4.25 ～5.15	235	民間宅地 建設	溝2、土坑1、石磨石、板碑、 砥石、古銭、陶器、馬の骨	埋(Ⅰ)
3次	長宮2-5-11	1978.7.24 ～30	111	民間宅地 建設	土坑1	埋(Ⅰ)
4次	長宮1-1-14	1978.10.6 ～9	37		住居跡1、土器、 須恵器、鉄製品	埋(Ⅰ)
5次	長宮2-5-2	1979.4.16 ～20	110		縄文前期住居1、縄 文土器片	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
6次	中丸1-4-13	1980.4.21 ～30	515		遺構なし、中世以 降陶器片	埋(Ⅲ)
7次	中丸1-3-6	1980.5.13 ～31	869		溝、井戸跡、縄文土 器、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
8次	長宮2-1-10 ～13	1980.9.8 ～10.8	1900	宅地造成	中世溝、井戸、土 坑、板碑、砥石、 陶磁器、古銭、馬 歯	遺調1集
9次	長宮1-4-10	1980.9.21 ～30	200		遺構なし、中世以 降陶器片	埋(Ⅲ)
10次	長宮2-3-4	1980.12.5 ～15	485		溝、土坑他、縄文 前期土器・石器、 中世以降古銭、陶 器	埋(Ⅲ)
11次	長宮2-2-10	1980.12.16 ～22	117		溝、縄文土器片、 中世以降陶器	埋(Ⅲ)
12次	長宮1-2-7	1981.5.26 ～30	160	個人住宅 建設	溝1、中世陶器片、 縄文土器片	埋(Ⅳ)
13次	長宮1-2-13	1981.6.3 ～11	251	個人住宅 建設	遺構なし、中世陶 器片	埋(Ⅳ)
1982 試	長宮1-2-12		1000	歴史民俗 資料館建設	溝2	57年教
14次	長宮2-2-1	1985.9.24 ～27	156	個人住宅 建設	溝1	埋(Ⅷ)
15次	西原2-5-8	1985.10.22 ～31	116	個人住宅 建設	なし	埋(Ⅷ)
1985 試	長宮1-2-11	1986.3.6 ～15	400	学童保育 室建設	溝2	60年教
16次	長宮1-4-7	1986.6.9 ～17	173	個人住宅 建設	縄文土器片	埋(Ⅸ)
17次	中丸1-3-11	1987.6.19 ～30	504	個人住宅 建設	縄文前期土器散布	埋(X)
1988 試	長宮1-3-8	1988.9.13 ～16	657	住宅建設	なし	埋(11)
1989 試(1)	長宮1-3-9	9.20～30	448	住宅建設	なし	埋(12)
1989 試(2)	長宮2-5-19	1989.11.14 ～24	1778	住宅建設	なし	埋(12)
1990 試	長宮2-5-4	1990.11.27 ～30	919	共同住宅 建設	なし	埋(13)
18次	長宮2-5-3	1992.10.6 ～12.2	925	共同住宅 建設	縄文住居跡1、中 近世土坑2、溝跡5	埋(15)
19次	長宮 1-2-21,35	1993.12.17 ～1.22	467	駐車場 敷設	古墳末期住居跡1	埋(15)
1993 試	長宮2-4-2の 一部	1994.2.10 ～28	1501.54	共同住宅 建設	溝跡2、土坑1、中 世後期板碑	5年教
1994 試	西原2-5-1	1994.7.25 ～8.2	314	心身障害者ア イ ケア施設の建 設	断面函形溝1	埋(17)
20次	長宮2-1-22 の一部	1995.4.10 ～5.9	169.59	個人住宅 建設	中近世溝4	埋(18)
21次	長宮 2-1-63,65	1995.6.19 ～8.8	360.94	個人住宅 建設	中近世溝1、井戸 7	埋(18)
1995 試(1)	長宮2-1-20 外	1995.8.9 ～28	421	市道敷設	なし	埋(18)
1995 試(2)	上ノ原3-1-6 外4筆	1995.10.4 ～12	1528	共同住宅 建設	溝1	埋(18)
1995 試(3)	長宮2-1-60	1995.10.23 ～25	269	駐車場 敷設	中近世溝1、井戸 4	埋(18)
22次	長宮2-1-60	1995.10.27 ～11.9	269	駐車場 敷設	中近世井戸跡4、溝1、陶 器、板碑破片、かわらけ	遺調6集

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収報告書
1995 試(4)	長宮1-3-13	1995.12.12 ～25	120	駐車場 敷設	なし	埋(18)
1996 試(1)	長宮1-2-16	1996.7.12 ～18	348.52	宅地造成	なし	埋(19)
1996 試(2)	中丸2-2-9 他3筆	1996.11.7	568	宅地造成	なし	埋(19)
1996 試(3)	長宮1-2-4	1997.1.14 ～21	794.16	共同住宅 建設	古墳～奈良住居1	埋(19)
1996 試(4)	長宮2-2-4	1997.2.24	204.78	社務所 改築	なし	8年教
1997 試(1)	長宮2-3-3	1997.4.8 ～9	611	農地 天地返し	溝1(時期不明)	埋(20)
1997 試(2)	長宮2-1-2	1997.4.9 ～11	289	個人住宅 建設	土坑1(時期不明)	埋(20)
1997 試(3)	長宮 1-2-36,37	1997.6.4 ～5	423.33	駐車場 建設	溝1(時期不明)	埋(20)
1997 試(4)	西原2-5-6	1997.8.15 ～21	753	駐車場 建設	中近世竪穴状遺構1	埋(20)
1998 試	中丸1-2-4	1998.11.24 ～27	1014	宅地造成	なし	埋(21)
1999 試	中丸1-3-12	1999.11.8 ～16	98	個人住宅 建設	溝1(時期不明)、縄 文前期集石2	埋(22)
2000 試(1)	中丸1-4-7	2000.7.4 ～11	932	宅地造成 (土地分譲)	縄文前期(関山期) 住居跡5、土坑13	埋(23)
2000 試(2)	西原2-4-8,10	2000.7.17 ～24	1081	宅地造成 (土地分譲)	なし	埋(23)
2000 試(3)	長宮2-1-17	2000.8.21 ～23	687	共同住宅 建設	なし	埋(23)
2000 試(4)	長宮 1-3-3A,4A	2001.1.17 ～23	1118.9	宅地造成 (土地分譲)	近世以降土坑1	埋(23)
23 次	中丸1-4-7	2001.7.18 ～26	137.01	個人住宅 建設	土坑6(縄文早期後葉1、 縄文前期4、近世以降1)	埋(24)
2001 試(1)	長宮2-1-3	2001.4.20 ～24	330	個人住宅 建設	なし	埋(24)
2001 試(2)	西原2-4-7	2001.5.25	634	共同住宅 建設	なし	埋(24)
2001 試(3)	中丸1-1-3	2001.8.7 ～24	513	共同住宅 建設	道路状遺構1、縄文 前期土坑1	埋(24)
2001 試(4)	長宮2-8-6	2001.11.6	130	個人住宅 建設	なし	13年教
2002 試(1)	長宮 1-3-2～5	2002.6.5 ～11	3536	宅地造成 (土地分譲)	竪穴住居跡2 【盛土保存】	埋(25)
2002 試(2)	長宮1-4-3	2002.6.20 ～7.2	575	遺構の所在 確認調査	竪穴住居跡2、溝2	埋(25)
2002 試(3)	中丸1-1-5	2002.9.3 ～11	622	宅地造成 (土地分譲)	道路状遺構1	埋(25)
2002 試(4)	長宮1-3-31	2002.9.20 ～25	362.19	地区計画 道路敷設	溝1	埋(25)
24 次	長宮1-4-3	2003.1.30 ～2.14	72	個人住宅 建設	竪穴住居跡2	14年教
2002 試(5)	長宮2-5-6	2003.3.10 ～12	827	宅地造成	竪穴住居跡1 【盛土保存】	14年教
2003 試(1)	長宮 2-5-30,32	2003.9.16	196.64	地区区画 道路設置	なし	埋(26)
2003 試(2)	長宮2-4-7	2003.12.16 ～18	1123	宅地造成	井戸跡1	埋(26)
2004 試(1)	中丸1-1-11	2004.11.26	488	宅地造成	なし	埋(27)
2004 試(2)	長宮1-2-15	2004.12.7 ～9	466	農地改良	なし	埋(27)
25	中丸1-4-8	2007.2.15 ～16	1161	個人住宅 建設	縄文遺構検出	市内3
26	西原2丁目5番 2の一部	2007.3.28	594	個人住宅 建設		市内3
27	長宮 2丁目1番4	2007.5.30 ～31	174.58	個人住宅 建設		
28	長宮 2丁目1番8	2007.5.31 ～6.5	188	個人住宅 建設		
確認 調査	西原2丁目 5-31	2007.10.15 確認調査	119.58	確認調査	保護層有り立会	
29	長宮2丁目 4-6の一部	2007.11.20 ～12.4	618	2階建 集合住宅		

※埋＝埋蔵文化財の調査、遺調＝遺跡調査会報告書、教＝教育要覧、市内＝市内遺跡群



第16図 長宮遺跡第25地点調査区域図 (1/300) ピット (1/60)

(2) 遺構と遺物

【ピット】遺構に伴う出土遺物はない。

第13表 長宮遺跡第25地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
1	円形	32×28	16×14	15	
2	円形	32×30	6×5	37	
3	円形	34×30	25×20	33	

【出土遺物】(第18図上) グリッド4の表土から縄文土器、グリッド3の表土から近世遺物を検出した。

1～14のすべてが胎土に繊維を含む。1～4は表裏共に貝殻条痕文、5～11は擦痕文をもつが植物繊維押圧文で、12と13は磨減著しいが素撚りの縄文を地文とする。14は丸底の破片である。縄文早期後半から縄文前期前半で、細片のため割愛した18片もこの類。

15～21は近世遺物。22はチャート製ドリル。(第14表)

Ⅲ 長宮遺跡第26地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007

年2月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西に立地し、北側の隣接地で平安から中世の竪穴状遺構を検出している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年3月28日に行った。2×2mのグリッドを6ヵ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、しみ状の暗褐色土プランを数ヵ所検出したが、確認したところ自然の窪みであった。確認面まで40cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出遺構を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

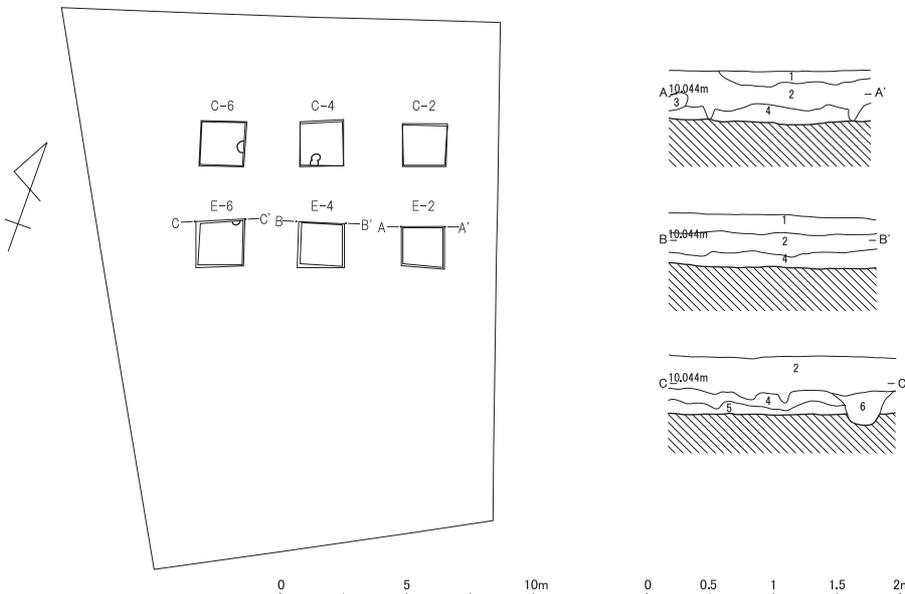
【出土遺物】(第18図下)表土から縄文土器を検出した。

1～3の胎土には大量の植物繊維を含む。1は沈線と刺突をもつ。2の一部に条痕文の痕跡がある。3は剥離が著しい。1～3は縄文早期後半のもの。4は硬質で青海状の同心円文があるが、時期は全く不明。

第14表 長宮遺跡第25地点出土遺物観察表

(単位cm)

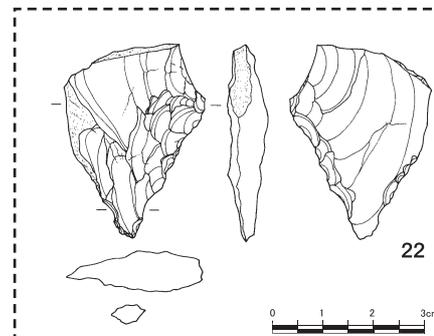
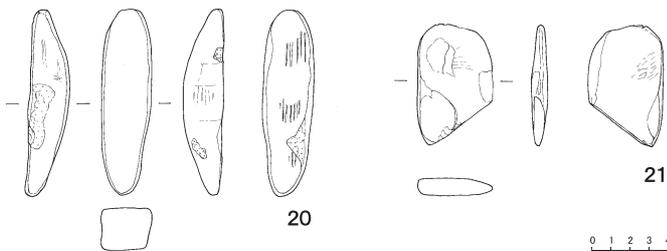
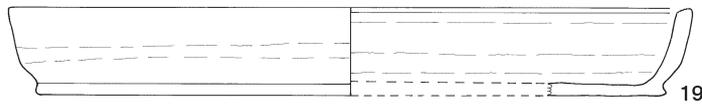
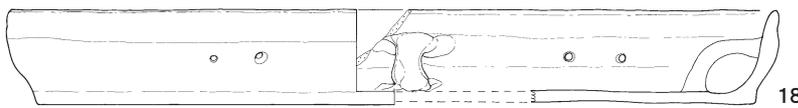
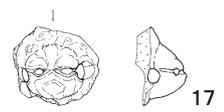
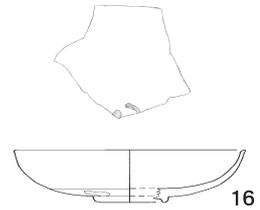
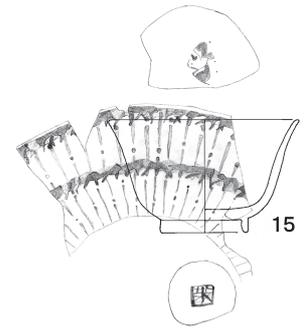
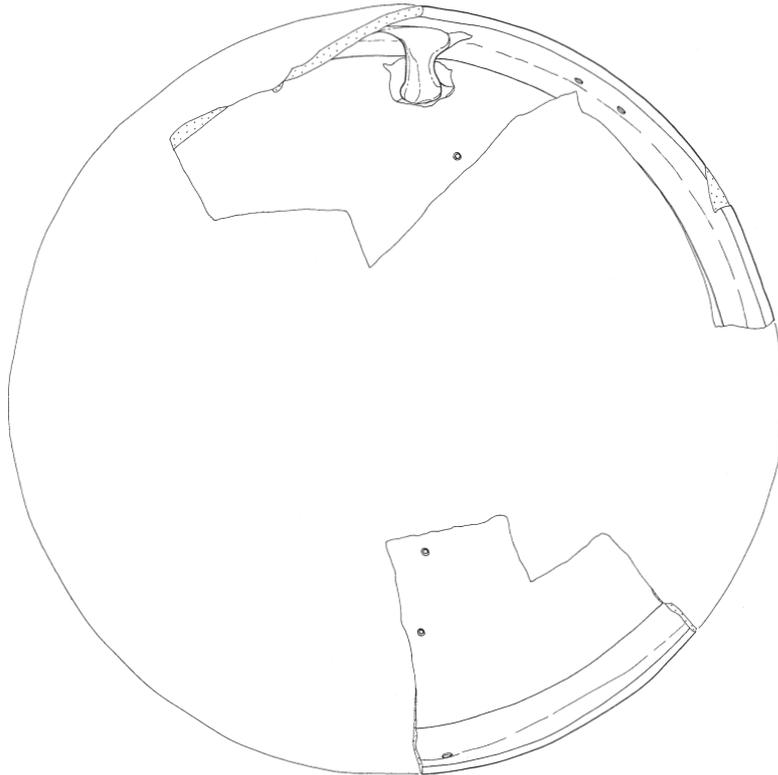
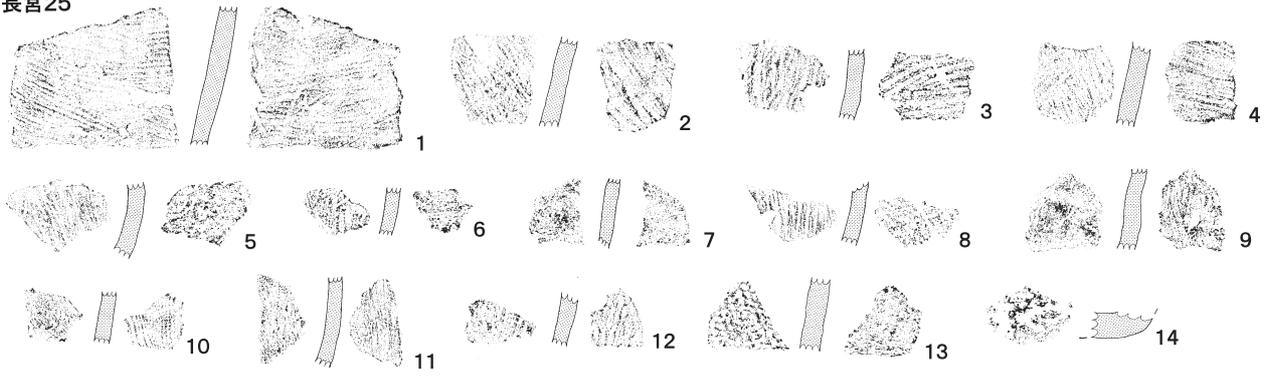
No	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
15	磁器・碗・端反碗	(10.0)	(4.6)	6.0	ロクロ成形/染付。外面篋文。底裏銘有り。内面見込みに鳥。	瀬戸・美濃	1810～1820年代	1/2以上残存
16	陶器・碗・薄茶碗	(12.0)	(4.0)	4.1	ロクロ成形/灰釉。見込みに呉須と鉄絵で梅文。	瀬戸・美濃	1740～1800年代	1/4以下残存
17	土器・火鉢				火鉢の把手、獅子頭。横に耳環用の穿孔がある。	在地		把手破片
18	土器・焙烙	(40.4)	(37.6)	4.9	紐作り成形、外面口縁部横撫で、内耳粘土紐を貼付け。底裏地縮目/赤色粒子、白色粘土がマール状に混入。/補修用の穿孔6ヵ所あり。	在地	近世	1/2以下残存
19	土器・焙烙	(36.0)	(33.2)	4.9	紐作り成形、外面口縁部横撫で、底裏地縮目/赤色粒子、白色粘土がマール状に混入。	在地	近世	1/4以下残存
20	石製品・砥石	9.9	2.7	2.1	表裏側4面砥面。嚢節状に端部が磨り減る。裏面と側面に櫛目状タガネ痕。	凝灰岩		上下裏面破損
21	石製品・砥石	6.5	4.0	0.9	表裏2面砥面。	凝灰岩		上下裏面破損
22	石器・ドリル	3.9	2.7	0.8	7.3g	チャート	縄文	



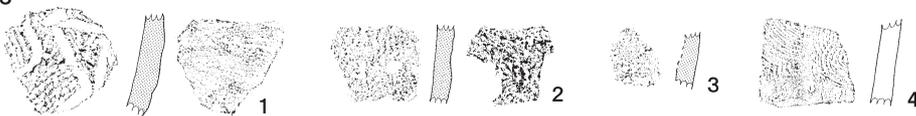
- 1. 埋土、ローム塊と黒色土の混合、硬く締る
- 2. 黒褐色土 締り有、ローム粒・焼土粒・炭少量
- 3. 粘土塊
- 4. 暗褐色土 締り有、包含層、ローム粒少量
- 5. 褐色土 締り有、ロームが斑状に入る。Ⅲ層
- 6. 暗褐色土 締り有、しみ状のピット、ローム粒少量

第17図 長宮遺跡第26地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/60)

長宮25



長宮26



第18図 長宮遺跡第25・26地点出土遺物 (1/4・2/3)

## 第8章 亀居遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25~26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2007年3月現在まで62地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡16軒、屋外埋蔵2基、集石土坑99基、土坑、ピット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

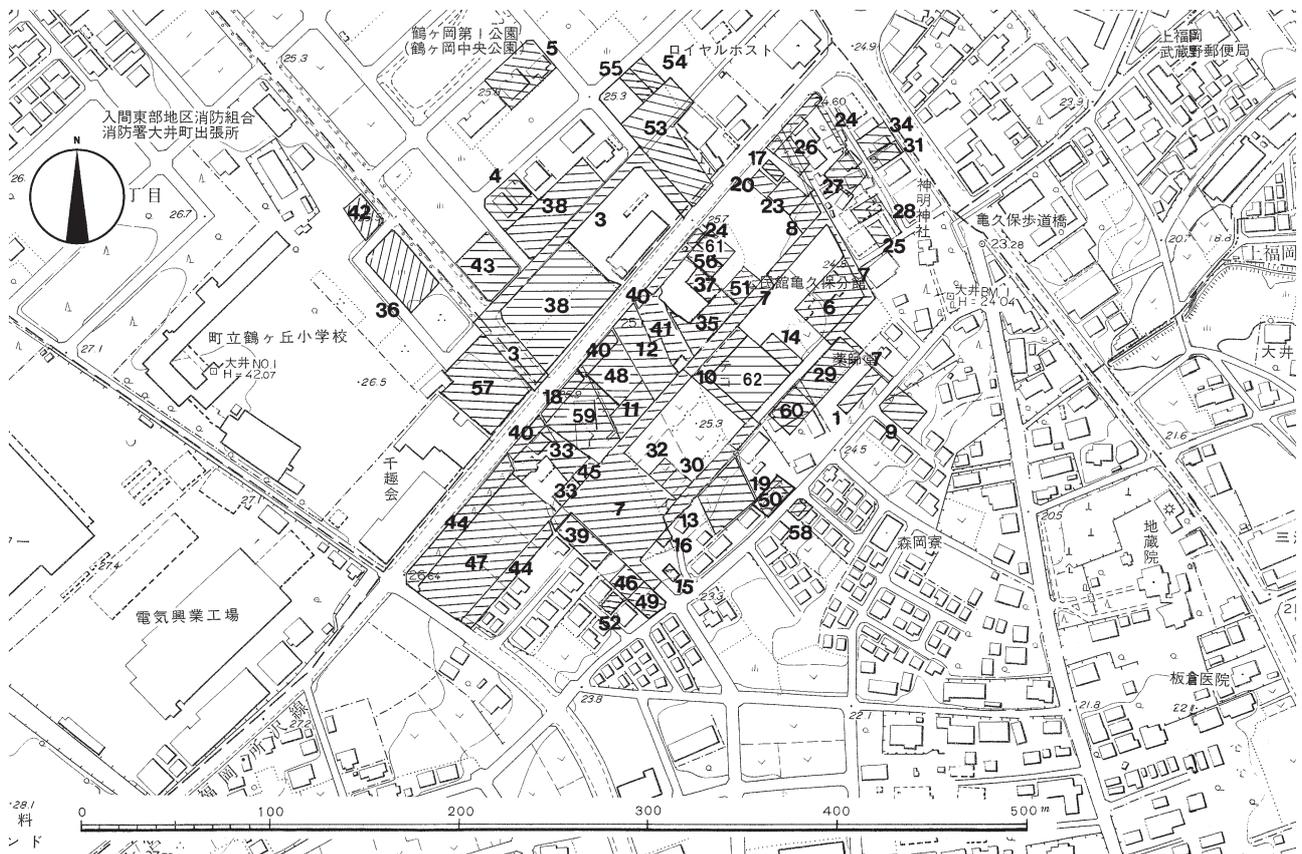
### II 亀居遺跡第61地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年9月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地からは縄文時代の集石、土坑、ピット等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年10月4日に行った。幅約2mのトレンチ2本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、住居跡、土坑等を確認した。確認面まで50~60cmを測るが、土壤改良のため遺構確認面まで掘削を行うことから本調査をすることとした。

本調査は2006年10月10日から同年10月13日まで行なった。住居跡、土坑の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果検出した遺構は縄文時代中期の住居跡1軒、集石2基、土坑1基、ピットである。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。



第19図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第20図 亀居遺跡遺構分布図 (1/1,500)

第15表 亀居遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は 試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物				所収報告書
					住居	炭石土坑	土坑	ピット	
1	亀久保1001	1972	155	農地転用					町史資料編Ⅰ、 調査会報告8集
2	亀久保1005	1973	350	農地転用					
3	鶴ヶ岡161-1	1979.11~12	750	区画整理	2	1	6		東部遺跡群 Ⅰ、調査会 報告8集
4	鶴ヶ岡2-2	(1984)試掘		区画整理					
5	鶴ヶ岡2-4-3	(1984)試掘		区画整理			1		
6	亀久保1000	1985	914	区画整理		7	4	30	東部遺跡群 Ⅵ
7	亀久保999	1986.8	2,740	区画整理	2	7	84	138	調査会報告 8集
8	亀久保1001	1986.8	181	個人住宅		2	3	11	東部遺跡群 Ⅶ
9	亀久保989-1	(1986.9) 試掘		住宅建設					
10	亀久保1010-1	1986.10	650	区画整理	1		20	17	調査会報告 8集
11	亀久保1011-3	1987.10.13 ~11.13	389	個人住宅		2		73	東部遺跡群 Ⅷ
12	亀久保1011-1	1987.11.16 ~12.16	387	個人住宅		1		48	東部遺跡群 Ⅷ
13	亀久保1007-3	1988.8	242	区画整理	2				調査会報告 8集
14	亀久保999-4	(1988.7.22 ~8.3)	165	個人住宅					東部遺跡群 Ⅷ
15	亀久保1007	(1989.2) 試掘		個人住宅					東部遺跡群 Ⅷ
16	亀久保1007	(1989.2)	45	個人住宅					東部遺跡群 Ⅷ
17	亀居995-3	1989.9.14 ~9.18	112	個人住宅			3	8	東部遺跡群 Ⅷ
18	県道拡幅	1990.3	210	区画整理					東部遺跡群 Ⅷ
19	亀居1007	1990.3.12 ~3.26	613	個人住宅					東部遺跡群 Ⅷ
20	亀久保1001-3	1990.5.21 ~5.25	118	個人住宅			1		東部遺跡群 Ⅷ
21		未調査							
22		未調査							
23	亀久保1001-14- 15	1990.9.3 ~9.10	160	個人住宅				10	東部遺跡群 Ⅷ
24	亀久保995-4	1990.12	1,324	区画整理		1	3		調査会報告 8集
25	亀久保995-7	1991.3.12 ~3.16	162	個人住宅					町内遺跡群 Ⅰ
26	亀久保1001-14	1991.2.14 ~3.15	259	個人住宅		2		60	町内遺跡群 Ⅰ
27	亀久保995-2	1991.5	249	個人住宅				5	町内遺跡群 Ⅰ
28	亀久保995-6	1991.1.24 ~2.1	475	個人住宅			6		東部遺跡群 Ⅷ
29	亀久保992-2	1991.7	925	集合住宅	1	2		36	調査会報告 3集
30	亀久保1007-3、 1008-3	1991.7	116	個人住宅					町内遺跡群 Ⅰ

地点	所在地	調査期間 ( )は 試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物				所収報告書
					住居	炭石土坑	土坑	ピット	
31	亀久保995-2-7	1991.9	197	個人住宅					町内遺跡群 Ⅰ
32	亀久保1008-1	1991.12.3 ~12.9	115	個人住宅				6	町内遺跡群 Ⅰ
33	亀久保1011-7	1991.12 ~1992.4	998	個人住宅	1	3		42	町内遺跡群 Ⅱ
34	亀久保955-2	(1992.2.13)	634	個人住宅					町内遺跡群 Ⅰ
35	亀久保1012-7	1993.9.28 ~11.5	470	個人住宅	1	2	7	56	町内遺跡群 Ⅲ
36	鶴ヶ岡1-2-2	(1994.2.17 ~2.18)	798	礼拝所建設		1			落し 穴1
37	亀久保1003-2-6 他	1994.2.18 ~2.25	566	店舗併用住 宅		1	13		町内遺跡群 Ⅲ
38	鶴ヶ岡2-1-1、2- 2-1	(1994.8.22 ~8.30) 1994.9	3,162	店舗		37	21	29	落し 穴2
39	亀久保1008-5	(1994.8.26 ~8.29)	342	駐車場造成		1	5		炉穴4
40	亀久保1012-5 他	1995.5	380	道路築造					調査会報告 8集
41	亀久保995-23- 24 他	1995.5.31 ~8.4	530	道路築造	1			66	調査会報告 8集
42	鶴ヶ岡1-3-14	(1995.7.11 ~7.18)	196	歯科医院建 設					町内遺跡群 Ⅴ
43	鶴ヶ岡2-3-1	(1995.8.9 ~8.30)	818	店舗兼用 共同住宅		4	2		町内遺跡群 Ⅴ
44	亀久保1013-1	1995.10.22 ~12.4	1,030	道路築造		炉穴3、礎群1	7	29	調査会報告 8集
45	亀久保1008- 5、1011-5	(1996.5.15 ~5.17)	619	共同住宅				5	炉穴1
46	亀久保1007-17	(1996.6.24 ~6.25)	192	分譲住宅					町内遺跡群 Ⅵ
47	亀久保1013-1 他	(1996.9.11 ~9.17) 1996.10.1~12.11	2,741	共同住宅	1	14	4	174	落し 穴1
48	亀久保995-19	(1997.1.20 ~1.29)	858	プレハブ事 務所			1		炉穴1
49	亀久保1007-14	(1997.11.6 ~11.10)	214	店舗併用住 宅					町内遺跡群 Ⅵ
50	亀久保1007-5	(1998.2.9 ~2.20) 1998.2.6	197	個人住宅	1		1		町内遺跡群 Ⅶ
51	亀久保3街区4画 地	1999.6.15 ~7.9	222	個人住宅		6	4	11	町内遺跡群 Ⅷ
52	亀久保7街区14 画地	(2000.2.1 ~2.2)	121	個人住宅					町内遺跡群 Ⅷ
53	鶴ヶ岡2-28-1	(2000.10.30 ~2001.1.18)	1,422	店舗		7			町内遺跡群 Ⅷ
54	鶴ヶ岡2-28-17	(2001.4.24 ~4.27)	148	個人住宅					町内遺跡群 Ⅷ
55	鶴ヶ岡2-28-16	(2001.11.14 ~11.16)	148	個人住宅					町内遺跡群 Ⅷ
56	亀久保2-13-14	2002.11.5 ~11.21	172	個人住宅				38	町内遺跡群 Ⅷ
57	鶴ヶ岡1-1-1	2003.4.24 ~4.28	1356	店舗					町内遺跡群 Ⅷ
58	亀久保2-975-19 -24	(2005.4.18)	79	個人住宅					市内遺跡群 2
59	亀久保2-10-5	(2005.8.3 ~8.31) 2005.9.1~9.16	1,073	共同住宅	2	1	1		調査会報告 18集
60	亀久保2-17-7	(2005.9.16)	293	個人住宅					市内遺跡群 2
61	亀久保2-13-4の 一部	(2006.10.4) 2006.10.10 ~10.13	88	個人住宅	1	2	1	5	市内遺跡群 3

第16表 亀居遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

住居 番号	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
1号	完掘	楕円形	680×445×40	○	②			有	テラス状入口有	阿玉台Ⅰb古	東部遺跡群Ⅰ 調査会報告8集	
2号	95%	楕円形	650×530×40	○	○			有	南東端未掘	阿玉台Ⅱ古	調査会報告8集	
3号	90%	隅丸台形	478×410×25	○	○				北東部一部未掘	阿玉台Ⅱ新	調査会報告8集	
4号	95%	楕円形	415×362×30	○	○				北端部区域外	阿玉台Ⅱ新	調査会報告8集	
5号	完掘	楕円形	415×360×30	○	○				テラス状入口有	阿玉台Ⅰb古	町内遺跡群Ⅲ	
6号	完掘	円形	446×425×20	○	②			有	テラス状入口有	勝坂Ⅱ古	調査会報告8集	
7号	98%	楕円形	(520×470)	○	○				床面全面的に削平	阿玉台Ⅰb新	調査会報告8集	
8号	完掘	楕円形	(440×350)	○	○				床面北半削平	阿玉台Ⅰb新	調査会報告8集	
9号	完掘	不整円形	480×470×30	○	○				柱穴内埋設土器	阿玉台Ⅱ古	調査会報告8集	
10号	完掘	楕円形	520×445×32	○	○				テラス状入口有	阿玉台Ⅰb古	町内遺跡群Ⅱ	
11号	完掘	楕円形	482×338×30	○	○			有	テラス状入口有・貼床	勝坂Ⅰ古	調査会報告8集	
12号	完掘	楕円形	463×390×25	○	○					阿玉台Ⅱ古	調査会報告8集	
13号	30%	(円形)	(380×?×40)	○	未掘				覆土の土器量多い	勝坂Ⅰ古	町内遺跡群Ⅶ	
14号	完掘	楕円形	425×370×20	○	○			有		勝坂Ⅰ新	調査会報告18集	
15号	完掘	楕円形	486×400×30	○	○			有	床面中央部攪乱	勝坂Ⅰ新	調査会報告18集	
16号	25%	(楕円形)	(調査区域外)×50	○	○				埋設時に口縁はめ込む	阿玉台Ⅱ古	市内遺跡群3	

## (2) 遺構と遺物

## ①16号住居跡

【位置】 亀居遺跡縄文集落内では内側にあたり、4号、6号住居跡から25m離れている。

【形状】 住居跡の約1/4を検出した。平面形態は円形か楕円形を呈する。確認面から床面の深さは50cm、壁は若干緩やかに立ち上がり、ほぼ垂直になる。床面はほぼ平坦であるが、炉跡周辺と壁際にローム土が薄く堆積し硬化している。

【炉】 炉は深鉢を転用した埋甕炉。径32×30cm・深さ36cmのピットに口縁部と底部を打ち欠いた土器を埋設する。打ち欠いた口縁部破片は炉内側で出土した他、炉体土器外側からも出土しており、土器埋設時に口縁部破片を埋め込んでいた。炉体土器周囲の径40cmの範囲が焼け赤化している。炉内堆積土中の焼土は少ない。

【ピット】 1基検出した。隅丸方形を呈し、確認面の規模35×32cm・底の規模25×22cm・深さ89cm。

【時期】 炉体土器から阿玉台Ⅱ式期。

## ②集石土坑

16号住居跡に近接して2基検出した。

第17表 亀居遺跡第61地点集石一覧表 (単位cm・g)

No	平面形態	土坑確認面	底面	深さ	磔範囲
1	楕円形	110×85	70×45	26	100×50
2	楕円形	125×95	105×75	22	70×65

No	磔数	重量	赤化		完形磔 (%)		備考
			個数	個数比	個数	個数比	
1	92	13,100	66	71.7%	11	12.0%	
2	31	2,500	8	25.8%	0	0%	

## ③土坑・ピット

土坑1基、ピット6基を検出した。

第18表 亀居遺跡第61地点土坑・ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	楕円形	138×102	105×85	24	
P1	楕円形	55×35	35×15	14	
P2	楕円形	49×41	10×5	38	
P3	円形	52×48	34×30	20	
P4	楕円形	55×45	20×12	43	土器
P5	円形	66×64	20×10	18	土器
P6	不整形	75×60	65×45	10	P4より新

## ④16号住居跡出土遺物

1は炉内埋甕土器であり、胴上部の膨らむ深鉢の胴最下部を剥離させたもので口縁部の3割を欠くのみであり、口径28cm・現存部36cmである。口縁部上面は押し引きによる刻目を入れ、4ヵ所に波頭部をつくる。口

縁部は長い長方形区画と短い菱形区画を押し引き線をつくる。4つの波頭下には隆帯を高く前方に突出させ太い刻目をつける。押し引きは方形と菱形には2重にめぐらせ、区画上部は噴水状に押し引き。口縁下端の隆帯上にも押し引きで刻目を入れる。頸部には2本の波状沈線を入れるが、一部には押し引きの痕跡を残している。

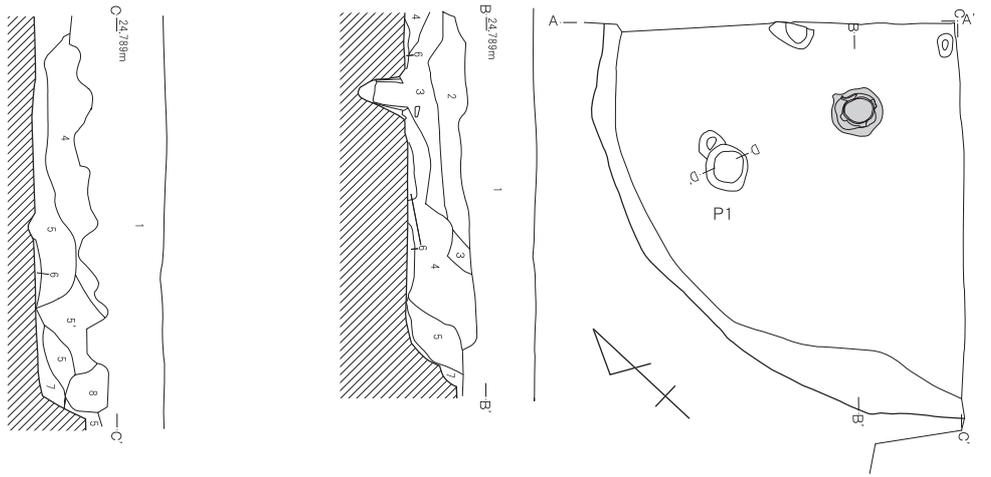
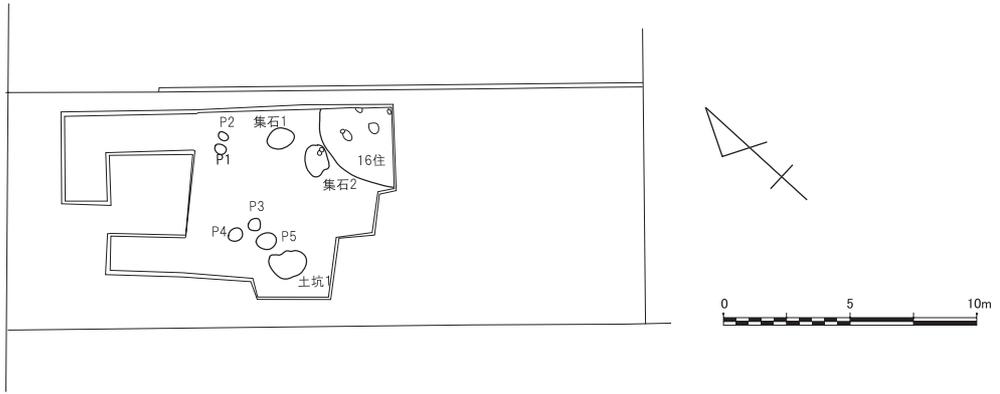
胴上部文様帯は、4つの突出した扇状把手とその中間の楕円形区画を隆帯貼付けでつくり、その裾外側に押し引きを連続させ、その下方にも押し引き波状文2本をめぐらせる。胴下部は無文地に、断面三角形のクランク状懸垂文を扇状把手の両側に垂下させ、隆帯が一見十字状となる。輪積の接合部は丁寧にナデ調整されている。胎土には白色細砂粒と白色軟質物質を多く含み角閃石も含むが金雲母は少ない。焼成良好で赤褐色ないし黄褐色を呈する。器の内面のほぼ全面と口縁部外面に2次被熱によるハジケ現象がある。阿玉台Ⅱ式の古相といえる。亀居2住の炉体土器に酷似する。

2は口縁から胴中部までの3割を遺存する大深鉢で現存部高19cm。口縁部文様帯は山形と台形を区画隆帯で区画し、その内側に幅広押し引きと三角押し引きのセットを配する。胴最上部文様帯は、幅広押し引きと三角押し引きの間に三角押し引きによる波状文を入れる。幅狭の隆帯間に無文の長円文を入れる。その下方の胴部文様帯も胴上部文様と同様である。胎土に白色砂粒と茶褐色砂粒・白色軟質物質を含み、赤褐色を呈する。直接接合しない3片も同一固体である。勝坂第Ⅰ様式(新道式)。

3は2と同巧の文様構成をとる深鉢の胴下半部片で、施文方向が2と逆である。

4は深鉢の大きい山形把手で突端を欠失する。口縁には押し引きによる太い刻目を入れ、隆帯の区画内にはやや斜めの連続押し引きと押し引きによる波状文を配す。

5は推定口径22cmの深鉢口縁部で、楕円形区画内に2列の押し引きを配す。頸部の素文帯下部にも押し引きを配する。6は扇状把手頂の破片で噴水状に押し引きがある。7は短い押し引きがはいる。8は把手頂で押し引きが2列入る。9は深鉢の胴部片で区画内は2列の押し引きを入れ胴下半は断面三角形の垂下文を貼付け、無文の胴部の輪積み接合部には突引きの刻目を入れる。10は胴部中部で垂下隆帯をもち、隆帯裾などに押し引きによる波状文を入れる。11と12もこの部分の破片。13は噴

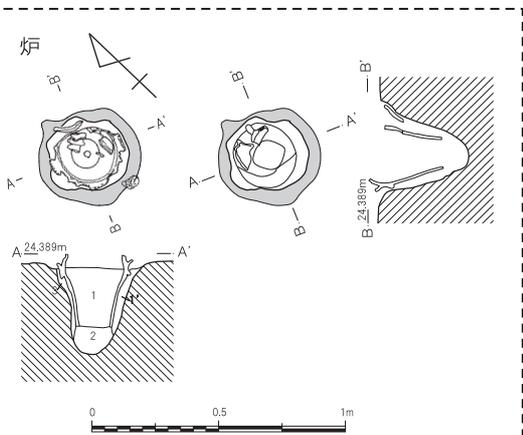


16号住居跡

1. 表土 耕作土、しまりなし
2. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)少量、焼土粒(1mm)極少量、炭化物(1mm)極少量、ソフトローム塊少量含む
3. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多量、焼土粒(1mm)極少量、炭化物(1mm)極少量、含む
4. 暗褐色土(明) 締り有、ローム粒(2-5mm)多量、焼土粒(1mm)極少量、炭化物(1mm)極少量、ローム塊やや多量含む
5. 褐色土 締り有、ローム粒(2-5mm)少量、ローム塊と暗褐色土の混合層、5' 締り弱
6. 褐色土 硬く締る、ローム粒(2-5mm)多量、ローム塊(1cm)少量含む、床面
7. 褐色土 締り有、ソフトローム主体
8. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)少量、ソフトローム塊少量含む
9. ローム塊主体、締り無し、攪乱層
10. 暗褐色土、締り無し、攪乱層

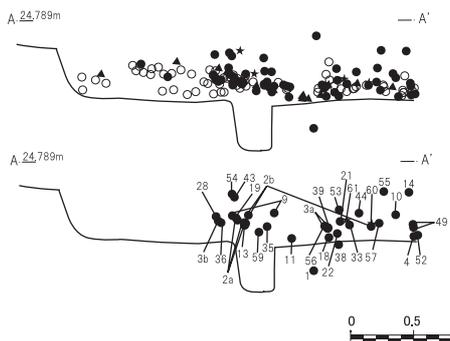
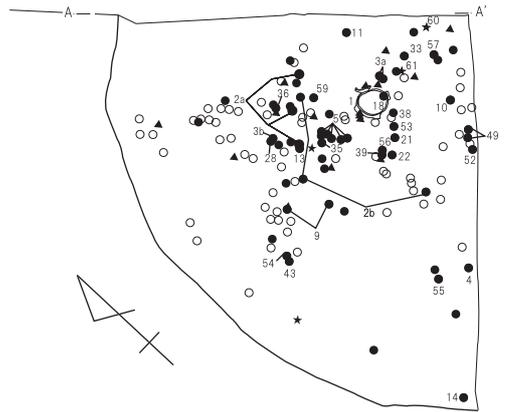
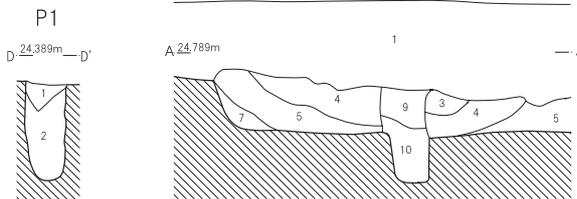
ピット1

1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多量、炭化物(1mm)少量含む
2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒(2-5mm)極多量、炭化物(1-3mm)少量含む



炉跡

1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多量、焼土粒(1-3mm)少量  
1' 硬く締る
2. 褐色土 締り弱、ローム粒(2-5mm)と暗褐色土の混合層
3. ローム塊と焼土塊と暗褐色土の混合層、硬く締る



第21図 亀居遺跡第61地点遺構配置図 (1/300) ・ 16号住居跡 (1/60) ・ 炉跡 (1/30)